

平成２７年度第１回 山科区民まちづくり会議

日時：平成２７年８月１８日（火）午前１０時～

場所：山科区役所 ２階 大会議室

議 事 次 第

１ 開 会

２ 議 事

<報告>

- （１）平成２７年度山科区「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」について

資料 2

- （２）平成２７年山科“きずな”支援事業（区民提案型まちづくり支援事業）
について

資料 3

- （３）区基本計画に基づく取組の平成２７年度実施計画及び平成２６年度進捗評価
について

資料 4

<議論>

- 「第２期山科区基本計画」の実現に向けて、平成２８年度以降に
重点的に取り組む項目について

資料 5

３ 閉 会

山科区民まちづくり会議委員名簿

平成 27 年 8 月現在：五十音順（計 43 名）※敬称略

氏 名	所属等	備 考
浅井 定雄	公募委員	
市川 正三	山科区農業団体連絡協議会会長	欠席
稲留 京香	公募委員	
井上 喜久三	山科区老人クラブ連合会副会長	
井上 元次	山科消防署長	
江口 悟	東部農業振興センター所長	
大川原 康夫	山科防犯協会会長	代理（岩見眞成）
大河内 清子	一般社団法人京都手をつなぐ育成会山科支部支部長	
太田 八十一	山科区民生児童委員会会長	欠席
大場 孝弘	山科青少年活動センター所長	
岡本 洋	山科の歴史を知る会代表	
片岡 滋夫	山科区保育園保育所協議会会長	
川崎 弘一	山科美化推進企業協議会会長	
川中 長治	山科消防団団長，一般社団法人山科経済同友会会長	
川村 竜生	京都橘大学現代ビジネス学部	
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会会長	
栗本 芾子	山科区地域女性連合会副会長	
小池 泰夫	東部文化会館館長	
小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授・現代ビジネス学部長	
小林 知子	京都市中学校 PTA 連絡協議会山科支部長	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会副会長	
澤 美彦	山科医師会会長	欠席
澤田 清一	山科区交通安全対策協議会会長	
朱 まり子	NPO 法人山科醍醐こどものひろば前理事長	代理（村井琢哉）
高野 正義	上下水道局山科営業所長	
田中 長一	山科区自治連合会連絡協議会会長会副代表	
出竿 賢治	NPO 法人おこしやす“やましな”協議会会長	代理（高木智）
中嶋 恵二	山科区体育振興会連合会会長	欠席
仲田 義明	山科図書館長	
中西 哲也	上下水道局みなみ下水道管路管理センター山科支所長	
野崎 栄美子	京都市児童館学童連盟山科地区代表	

氏 名	所属等	備 考
平野 一男	山科少年補導委員会副会長	
藤井 豊	東部土木事務所長	
藤村 徹	京都市小学校長会山科支部長	欠席
松永 昌子	京都市私立幼稚園協会山科地区代表	
水本 誠二	山科まち美化事務所長	
森 正美	京都文教大学総合社会学部教授	
棕本 久雄	京都市立中学校長会東山・山科支部理事	欠席
柳生 昌保	山科区自治連合会連絡協議会会長会代表	
山尾 正行	清水焼団地協同組合事務局長	
山本 善徳	山科地域防犯推進委員協議会会長	欠席
吉川 彰	社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会事務局長	
吉崎 幸二	山科警察署長	

事務局（山科区役所職員等）名簿

氏 名	役 職 等	備 考
堀池 雅彦	区 長	
石田 忠彦	副区長（地域力推進室長・区民部長）	
塩見 徹也	副区長（福祉部長）	
鍋田 淑華	副区長（保健部長）	欠席
山口 佳子	地域力推進室総務・防災課長	
野村 征理代	地域力推進室まちづくり推進課長	
山本 恵果	地域力推進室企画係長	
葛西 剛之	地域力推進室係員	
石嶋 知哉	地域力推進室係員	
佐藤 友一	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー （山科区主担当）	
天岡 昌代	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	
谷 亮治	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	
山本 一貴	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

平成27年度 第1回山科区民まちづくり会議委員 グループ名簿

グループⅠ[環境]

氏名	所属等	代理
川崎 弘一	山科美化推進企業協議会会長	
栗本 帚子	山科区地域女性連合会副会長	
佐治 俊彦	山科保健協議会連合会副会長	
中西 哲也	上下水道局みなみ下水道管路管理センター山科支所長	
水本 誠二	山科まち美化事務所長	
佐藤 友一	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

グループⅡ[魅力・観光]

氏名	所属等	代理
浅井 定雄	公募委員	
井上 喜久三	山科区老人クラブ連合会副会長	
江口 悟	東部農業振興センター所長	
木下 文男	山科区身体障害者団体連合会会長	
出竿 賢治	NPO法人おこしやす“やましな”協議会会長	高木 智
森 正美	京都文教大学総合社会学部教授	
山口 佳子	地域力推進室総務・防災課長	
石嶋 知哉	地域力推進室係員	

グループⅢ[交通・都市基盤]

氏名	所属等	代理
大川原 康夫	山科防犯協会会長	岩見 眞成
岡本 洋	山科の歴史を知る会代表	
高野 正義	上下水道局山科営業所長	
藤井 豊	東部土木事務所長	
柳生 昌保	山科区自治連合会連絡協議会会長会代表	
山本 一貴	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

グループⅣー①[保健・福祉・子育て]

氏名	所属等	代理
稲留 京香	公募委員	
片岡 滋夫	山科区保育園保育所協議会会長	
朱 まり子	NPO法人山科醍醐こどものひろば前理事長	村井 琢哉
野崎 栄美子	京都市児童館学童連盟山科地区代表	
吉川 彰	社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会事務局長	
葛西 剛之	地域力推進室係員	
白水 育世	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

グループⅣ－②[保健・福祉・子育て]

氏名	所属等	代理
大河内 清子	一般社団法人京都手をつなぐ育成会山科支部支部長	
大場 孝弘	山科青少年活動センター所長	
小林 知子	京都市中学校PTA連絡協議会山科支部長	
仲田 義明	山科図書館長	
松永 昌子	京都市私立幼稚園協会山科地区代表	
塩見 徹也	副区長(福祉部長)	
山本 恵果	地域力推進室企画係長	

グループⅤ－①[地域とのつながり]

氏名	所属等	代理
小暮 宣雄	京都橘大学現代ビジネス学部教授・現代ビジネス学部長	
井上 元次	山科消防署長	
川中 長治	山科消防団団長, 一般社団法人山科経済同友会会長	
田中 長一	山科区自治連合会連絡協議会会長会副代表	
山尾 正行	清水焼団地協同組合事務局長	
石田 忠彦	副区長(地域力推進室長・区民部長)	
天岡 昌代	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

グループⅤ－②[地域とのつながり]

氏名	所属等	代理
川村 竜生	京都橘大学現代ビジネス学部	
小池 泰夫	東部文化会館館長	
澤田 清一	山科区交通安全対策協議会会長	
平野 一男	山科少年補導委員会副会長	
吉崎 幸二	山科警察署長	
野村 征理代	地域力推進室まちづくり推進課長	
谷 亮治	文化市民局地域自治推進室まちづくりアドバイザー	

出席者

	I	II	III	Ⅳ－①	Ⅳ－②	V－①	V－②	計
委員	5	6	5	5	5	5	5	36
事務局	1	2	1	2	2	2	2	12

平成 27 年度山科区「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」について

1 概 要

今年度は、区民の主体的なまちづくりを区役所がしっかりと支えていく協働の仕組みづくりとして、平成 24 年度に創設した「区民提案・共汗型まちづくり支援事業」として、以下の事業を実施しています。

山科区では、「山科区民まちづくり会議」で共汗・協働によるまちづくりを推進していきます。

2 平成 27 年度の事業内容（★印は新規事業）

(1) 区民提案型支援事業

●山科“きずな”支援事業（予算額：836 万円）

「第 2 期山科区基本計画」がめざす「心豊かな 人と緑の“きずな”のまち 山科」の実現に向けて、区民、地域団体、NPO 法人及び大学等との共汗・協働によるまちづくりを推進するため、地域団体等及び大学への支援事業を実施します。さらに、活動をより活発にするため、活動の後押しとなるようなまちづくり講座を実施するとともに、活動の成果を広く発信する成果報告会を開催します。

●学区の安心安全ネット継続応援事業（予算額：32 万 5 千円）

区民が自主的・主体的に行う身近な安心・安全の取組を支援・推進するため、防犯、地域福祉、防災、子どもたちの安全対策など、小学校区を単位として行う安心安全の確保のための活動に対する支援を実施する。

(2) 共汗型事業

「第 2 期山科区基本計画」の実現や地域課題の解決に向けて、区民と区役所との共汗・協働により取り組む事業。

★地域の防災力アッププロジェクト（予算額：48 万 1 千円）

平成 26 年度に作成された区内の全避難所（32 箇所）の避難所運営マニュアルの実効性を高めるため、地域役員を対象とした研修会を実施します。また、当該研修を受けて、各学区においても避難所運営訓練や研修会を実施するとともに、避難所運営に必要な資機材を配備します。

★やましなお誕生おめでとう事業（予算額：11 万円）

子育て家庭を地域ぐるみでサポートするため、新たに、地域の民生委員・児童委員及び主任児童委員による、乳児家庭への訪問・育児相談を実施します。

★やましな子育て情報発信事業（予算額：44 万 1 千円）

区内の関係機関が実施している子育て支援事業の情報や乳幼児期の子育てのポイントをまとめた情報誌を作成し、未就園児を持つ家庭を中心に、地域の子育て情報を発信します。

●やましな GOGO カフェの運営（予算額：65 万円）

山科やまちづくりに関心のある区民同士が出会い、交流を深め、行動のきっかけを見つける場となる「やましな GOGO カフェ」を定期的で開催します。

●山科・感動ツーリズム推進事業（予算額：90 万円）

地元住民と行政、交通事業者、旅行会社等との協働の下、山科地域の潜在的な観光資源の掘り起し、磨き上げ、発信を行い、山科地域の観光まちづくりを進めるとともに、京都観光の地域的な分散化や地下鉄東西線の乗客増を図ります。

●山科区民ふれあい事業（予算額：562 万円）

「ふれあい“やましな”区民まつり」、「ふれあい“やましな”区民ふれあい文化祭」、「ふれあい“やましな”区民史跡の探訪」及び「山科区フラワーロード推進事業」を実施する。

●その他、山科区ならではの地域力を活かした事業（予算額：267 万 8 千円）

「山科区 2 万人まち美化作戦」、「山科区エコアクション No.1 宣言」、「山科区地下鉄駅周辺おでかけマップの作成」、「山科区フリースペースの設置・運営」、「健康づくりサポーター（キャットハンズ）とウォーキング」などを実施する。

平成 27 年度山科 “きずな” 支援事業（区民提案型支援事業）について

1 概 要

今年度の山科 “きずな” 支援事業について、第 1 次募集を実施し、32 の団体等から申請があり、「山科区 “きずな” 支援事業審査委員会」における審査を経て、29 件の対象事業を決定しました。

なお、現在第 2 次募集を実施しています。

2 第 1 次募集の概要

（1）募集期間

平成 27 年 4 月 13 日（月）～5 月 15 日（金）

（2）支援内容等

ア 地域団体等	地域団体，NPO法人，グループ等が行うまちづくり活動や事業	【補助限度額】	
		総事業費 10 万円超	1 事業 30 万円
		総事業費 10 万円以下	1 事業 10 万円
		【交付率】 1 年目 3／4 以内， 2 年目以降 1／2 以内	
		【補助期間】 1 年	
イ 大学等	大学等と区民との共汗・協働による事業や交流事業など	【補助限度額】 1 事業 30 万円	
		【交付率】 10／10 以内	
		【補助期間】 1 年	

（3）審査委員会

（ア）開催日時

平成 27 年 6 月 11 日（木）午前 9 時～午後 0 時 30 分

（イ）審査委員

- ・佐伯 久子氏（山科区地域女性連合会会長）
- ・朱 まり子氏（NPO 法人山科醍醐こどものひろば前理事長）
- ・深尾 昌峰氏（龍谷大学准教授、きょうと NPO センター常務理事 ※外部委員）
- ・森 正美氏（京都文教大学教授）
- ・柳生 昌保氏（山科区自治連合会連絡協議会会長会代表）
- ・吉川 彰 氏（社会福祉法人京都市山科区社会福祉協議会事務局長）

(4) 申請件数及び採択件数等

(ア) 申請件数

32件（新規17件，継続15件）

(イ) 採択件数

29件（新規15件，継続14件）

(ウ) 採択事業の概要

別紙を御参照ください。

(5) 申請及び採択件数等の内訳

地域団体枠		
①一般事業枠	14件	14件
②小規模事業枠	(12件)	(12件)
③大学等枠	0件	1件
地域団体枠		
④一般事業枠	13件	14件
⑤小規模事業枠	(10件)	(11件)
⑥大学等枠	(3件)	(3件)
⑥大学等枠	2件	3件

3 第2次募集の概要

(1) 募集期間

平成27年8月3日（月）～8月31日（月）

(2) 採択事業決定のスケジュール（予定）

10月上旬 審査委員会

10月中旬 採択決定

平成27年度 山科“きずな”支援事業 採択事業一覧(第1次募集)

1 新規事業

(1) 団体 10団体

(単位:円)

1	「山科歴史街道・史跡巡り」(第1年次)	ふるさとの良さを活かしたまちづくりを進める会	区民が自らの生活の場である山科の歩いて調べ、学ぶことを通して、山科に愛着を持ち、相互の豊かなコミュニケーションの形成を目的として、歴史街道や史跡を調査し、その成果を大型地図にまとめ、区民に無料配布する。	300,000
2	オレンジカフェ	社会福祉法人緑寿会	認知症になっても住み慣れた地域で暮らせる地域づくりのため、地域の喫茶店を活用した茶話会や悩み相談を行う。	200,000
3	なかよし会	なかよし会	空き店舗を利用して、筋トレ教室やお話教室を行うなど、町内会及び地域の交流の場とし、きずなを深める。また、高齢者の親睦の拠点とし、介護予防につなげる。	120,750
4	高齢者支援事業	特定非営利活動法人山科未来地図E-Wa(いーわ)!!山科	社会的孤立や困窮者等シニア世代を支援し、自分らしく暮らせる安心、安全、活性のある社会を創り出すまちづくりを目指すため、元気なシニアが病院への付き添い、家事手伝い等を実施する。	85,500
5	小金塚地域の交通環境向上事業	小金塚自治連合会	地域の少子高齢化が進み、便利で快適な、安心安全のまちづくりが必要となっているため、公共バス導入を目指し、道路環境の整備に向けた取組を実施する。	300,000
6	おむすびの会	むすび	小学校入学前までの子と保護者があつまり、おむすびを作って、皆で食べる昼食会を開催し、育児中の悩みや不安を分かちあい、参加者同士の絆を深める。	115,000
7	勸修中学校 放課後学習会	勸修中学校区こどもの学びサポートプロジェクト	中学生を対象にした放課後学習支援授業を地域の力で創出することによる、子どもの学力向上及び健全育成、ならびに地域活性化を目的として事業を実施する。	300,000
8	第4回山科バルフェスタ	山科商店会	地域との絆を深め、他の団体やイベントなどとの連携を図ることにより、商店会単体から山科駅前地域、山科区域全域へ、より広域での「地域一体」の活性化につなげるために山科バルフェスタを開催する。	300,000
9	安祥寺中学校区緊急時安否確認かぎ預かりモデル事業	安祥寺中学校区かぎ預かりモデル事業実行委員会	ひとり暮らしの高齢者の孤立死などの事故を予防するために、事前に家屋の鍵を預かり、緊急時に鍵を使って家屋に入り、安否確認を行うとともに、必要に応じて警察・救急等への連絡を行う。	300,000
10	QOLを高める山科連絡会「外出しましょう部会」「ちょっとお手伝いします部会」	QOLを高める山科連絡会	「外出」が困難な方や、少しのお手伝いで困りごとを解決できる高齢者や障害のある方が住み慣れた地域で安心して生活できるようサポートを実施する。	62,500
計				2,083,750

(2) 小規模事業 3 団体

(単位：円)

1	子育てサロン にこにこ広場	大宅民生児童委員 協議会	親子で参加し、手遊び・読み聞かせ・工作・体操など楽しみながら、専門家による子育ての先輩からのアドバイスも気軽に受けられる場とする。加えて親同士の交流、情報交換の場となるように考える。	49,800
2	保健・福祉・子育て支援の充実につながる事業	きママつず	子育ての孤立化を防ぎ、楽しめる環境をつくるため、地域のおすすめスポット等を掲載した山科ママならではの冊子を作成するとともに、気軽に参加できるイベントを企画する。	99,910
3	フリーペーパー 「やましの居場所」	ヴァリアス・コネクションズ	高齢の人や障がいのある人、子育て中の人など、あらゆる人が気軽に立ち寄れる場所＝居場所を紹介し、居場所に集うさまざまな人の姿や思いを知ってもらい地域で孤立する人を減らすことへつなげる。	93,510
計				243,220

(3) 大学等 2 団体

(単位：円)

1	パパとママのこころ育て広場	京都橘大学心理臨床センター	乳幼児期の子育てを支援する。特に、発達の遅れが若干見られるケースや、親子関係構築に躓きのあるケースに対して、子供の発達と保護者の養育との両面からサポートするため、京都橘大学心理臨床センターにおいて、年間8回の子育て支援プログラムを実施する。	80,000
2	腰痛予防教室	京都橘大学理学療法学科ヘルスプロモーションコース	山科区民に対し腰痛に関する基礎知識の提供及び腰痛予防体操を紹介し、腰痛に対するセルフマネジメント能力を高めることを目的とする。これにより、腰痛による医療機関への受診率が下がることを期待する。	235,000
計				315,000

2 継続事業

(1) 団体 1 2 団体

(単位：円)

1	高齢者を対象とした料理教室の開催	勧修学区ボランティアセンター マスカット	高齢者を対象とした料理教室を開催することで、閉じこもり高齢者をなくし、高齢者同士のつながりを強め地域で応援するための活動を行う。	50,000
2	小金塚地域危険箇所パトロール事業	小金塚自治連合会	住宅地外周の急傾斜地危険箇所パトロールや倒木等危険性のある場合の緊急避難的措置（倒木の伐採等）を実施することで、未然に被害を防ぐ。	200,000

3	いきいきサロン	勸修学区民生児童委員協議会	勸修小学校ふれあいサロンで、高齢者を対象に、季節に応じたレクリエーションや作品作り等を行い、高齢者の生きがいがづくりと相互交流を実施する。	80,200
4	すまいのQQ隊	山階社会福祉協議会山階ボランティアセンターいこい会	高齢者、独居者、身体障害者の方をはじめ一人暮らしの方が、安心して暮らせる様に家具の転倒防止、家電器具の取り換え等のサービスを実施する。	150,000
5	四ノ宮地域の歴史広報振興事業 (平成27年度)	弦楽ふるさとの会	弦楽ふるさとマップ「四ノ宮めぐり」によるウォークラリーや琵琶をはじめとする弦楽奉納演奏会を実施する。また、琵琶の身近な楽器としての可能性をPRする。	300,000
6	2015大晦日のつどい	山階社会福祉協議会	大晦日に一人ぼっちではなく、色々な環境の方々と、明るく、楽しく新年を迎えるために、大晦日イベントを実施する。	100,000
7	電話でつながる「不登校ひきこもり相談」	親子支援ネットワーク ♪あんだんて♪	不登校ひきこもりの子を持つ親を対象とした電話相談を実施し、関係機関とも連携して子どもや保護者への支援を行う。	300,000
8	山科おやじフェスタ	山科おやじの会連絡会	学校・家庭・地域の連携のもとで世代を超えた多くの方々とともに地域のきずなを深めるため、イベントを実施する。	300,000
9	地域交流を深めるお話上映会の開催	勸修学区社会福祉協議会読み聞かせおはなし広場くすくす	子どもからご高齢の方まで、同じ場所で読み聞かせを行い、共通の話題ができるような人と人とのつながりや絆を深めるための“場”の提供することで、心を豊かにするための活動を実施する。	100,000
10	子どものための将棋による「出会い・ふれあい・交流」推進事業	と金クラブ	児童館と連携し、子ども将棋教室を実施し、将棋を通じた健全育成を図る。また、定期的に子どもを対象とした大会を開催し、子どもに将棋の楽しさと人間交流の場を提供する。	150,000
11	山科の伝承や文化を紙芝居にして子どもたちに伝える事業	やましなを語りつぐ会	山科の伝承や文化を紙芝居にして、児童館や老人会などでの出前公演を行い、地域文化の伝承や文化を広げる活動をすすめる。	300,000
12	社会的孤立防止、生活問題解決のための『小地域（学区）福祉ネットワークと地域の絆づくり活動（見守り・居場所づくり、相談・生活支援）推進事業』	山科区地域福祉活動計画推進会議	地域の関係団体が連携し、社会的孤立防止、生活問題解決のため、懇談会や調査活動を実施し、小地域（学区）福祉ネットワーク体制の構築、生活支援のための活動プログラム開発と普及を行う。	237,500
計				2,267,700

(2) 小規模事業 2 団体

(単位：円)

1	『音羽小学校ふるさと ルーム ミニ講演会』 (第3年次)	音羽小学校学校運 営協議会	音羽小学校の地域教育資料室「ふるさとルー ム」を活用して、保護者及び地域住民を対象と した2か月に1回程度のミニ講演会を実施し、 郷土への理解を図る。本年度は第3年次とし て、今までの取り組みの成果をまとめる。	100,000
2	勸修学区「手話教室」	勸修学区「手話教 室」	聴覚言語障害者の「ことば」である手話を学 び、地域に手話を広めていく。手話を通じてお 互いに協力し合い、交流を深めていく。	73,500
計				173,500

※ 補助予定額 総計

5,083,170

「第 2 期山科区基本計画」に基づく取組の 平成 2 6 年度実施状況に係る評価結果について

「第 2 期山科区基本計画」に基づく取組の平成 2 6 年度の「実施又は未実施」等を参考に「5 0 の取組」全てについて、達成度を 4 段階で評価していただいた結果です。

- 4 点…できている。
- 3 点…どちらかというとできている。
- 2 点…どちらかというとできていない。
- 1 点…できていない。
- わからない（空白）

基本施策 1		平均点	4 点	3 点	2 点	1 点	空白	25年度 平均点	24年度 平均点	23年度 平均点
環境を守り継ぐ		3. 19	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	3. 06	3. 04	3. 10
1	①まちの水・緑の充実	3. 38	13	18	1	0	11	3. 30	3. 20	3. 20
2	②公園・緑地等の整備と適切な管理	2. 94	6	17	8	0	12	2. 93	2. 92	3. 02
3	③自然環境の保全・回復	3. 18	9	21	3	0	10	3. 07	3. 05	3. 05
4	①低炭素社会づくりによる地球温暖化対策の推進	3. 13	9	16	5	0	13	2. 67	2. 73	2. 89
5	①ごみの発生抑制と資源循環型社会の構築	3. 40	15	19	1	0	8	3. 21	3. 15	3. 24
6	②廃棄物対策の充実と環境美化	3. 18	8	24	2	0	9	3. 15	3. 13	3. 21
(4) 環境について学ぶ		3. 09						3. 12	3. 08	3. 11
7	①環境学習の充実	3. 09	8	19	5	0	11	3. 12	3. 08	3. 11

【基本施策 1:自由記述欄】

- ・ (1)－2 について、公衆トイレの設備充実や美しいトイレが必要。
- ・ (4)－7 について、市民の環境に対する意識やマナーがまだまだ不十分。
- ・ 緑豊かな山々と山科川の美観が守られています。子どもたちの健全育成に、環境誘致に、そして地域発展につながればいいですね。山科が京都の美観地区、歴史地区になれるように頑張りたいです。
- ・ (3)－5 について、ごみの分別が各家庭に徹底してきているのを感じている。
- ・ 全市的な取組と区のものの実績で混在しており、区の実態が分かりにくい。
- ・ (1)－2 について、これらの取組が公園維持管理にどのように役立っているか分かりにくい。
- ・ 地域（特に公園、河川）の環境整備、環境美化は行き届いていると感じている。

基本施策 2		平均点	4 点	3 点	2 点	1 点	空白	25年度 平均点	24年度 平均点	23年度 平均点
まちの魅力・観光を磨く		3. 02	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	2. 96	2. 96	3. 02
8	①山科の魅力の発信	3. 55	19	13	1	0	10	3. 48	3. 33	3. 37
9	②歴史資源等の保全・活用と新たな魅力づくり	3. 13	9	18	5	0	11	3. 11	3. 31	3. 22
10	③観光基盤の整備	2. 72	4	15	13	0	11	2. 74	2. 73	2. 98
11	①伝統産業の活性化と観光活用	3. 03	10	13	9	0	11	2. 74	2. 83	2. 92
12	②農地の保全と観光農業の展開	2. 69	3	14	12	0	14	2. 50	2. 63	2. 75
13	③伝統産業・農業の担い手支援	2. 69	2	17	9	1	14	2. 56	2. 54	2. 83
14	①わがまち山科を知る機会の充実	3. 00	9	16	7	1	10	3. 17	2. 98	2. 90
15	②生涯学習活動の展開	3. 09	8	20	3	1	11	3. 17	3. 10	3. 03
16	③文化・芸術活動の振興	3. 06	11	12	7	1	12	3. 07	2. 92	3. 08
17	①区民スポーツの振興	3. 52	17	13	1	0	12	3. 44	3. 37	3. 30
18	②スポーツ・レクリエーションのリーダー養成	2. 79	4	15	8	1	15	2. 58	2. 82	2. 90
【基本施策 2：自由記述欄】 ・（１）－１０について、観光客がコースを巡るための歩道などの整備、観光トイレの設置、宿泊施設、名産品（おみやげ）等々、まだまだ課題は多い。 ・（３）－１４について、山科を知る機会をもっと多く設け、更なる充実を図ってほしい。 ・多くの観光資源がありながら、京都市１，０００万人入浴者の一割も山科に誘致できないのは残念です。真摯に取組を発展させましょう。 ・遺跡、史跡の保全、保存と十分なＰＲがなされていない（文化財保護課とも連携を深めて対処されるように望む）。地域スポーツ推進指導員が各学区３～４名配置されているが、その他の地域にスポーツ・レクリエーションリーダーが不在で、スポーツ振興のためには、リーダーの設置、育成が必要と認められる。 ・観光はもっとできることがありそうです。 ・（１）－８・９について、活発な取組がされていても、区民にその情報が届いていない。ＮＰＯ法人おこしやす“やましな”協議会などを見ても、リアルタイムの情報がアップされていない等、ＳＮＳ利用の不備な点が評価２の理由です。（３）－１４・１５・１６についても同様です。情報発信にもっと磨きをかけるべきだと思います。 ・体振が中心になってやってほしい。 ・魅力あるまちづくりという観点から老若問わず、活発な取組が随所に見られる。										

基本施策 3		平均点	4 点	3 点	2 点	1 点	空白	25年度 平均点	24年度 平均点	23年度 平均点
交通・都市基盤を強化する		2.66	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	2.52	2.60	2.76
19	①幹線道路網の交通対策	2.55	2	16	10	3	12	2.48	2.62	2.75
20	②安全で快適な道路空間の整備	2.33	2	11	12	5	13	2.28	2.36	2.51
21	③山科を楽しめる歩行者ネットワークの整備	2.42	2	11	16	2	12	2.32	2.42	2.64
22	④交通安全対策の強化	2.94	6	19	6	1	11	3.00	2.95	3.02
23	①公共交通ネットワークの充実	2.72	5	12	11	1	14	2.59	2.64	2.73
24	②パークアンドライド／サイクルライドの促進	2.31	1	10	15	3	14	2.17	2.24	2.37
25	①災害に強い都市構造の形成	3.03	8	17	5	1	12	2.43	2.63	2.88
26	②魅力ある拠点づくり	2.79	4	15	10	0	14	2.50	2.65	2.88
27	③良好な景観の保全と創出	2.83	5	14	10	0	14	2.93	2.86	3.05

【基本施策3:自由記述欄】

- ・（１）－１９・２０について、山科を通過するだけの車が生活道路に流れ込まないための規制が必要。また、ひとたび事故があると大渋滞が起きる状況は全く改善されていない。
- ・（２）－２３について、「くるりバス」は、特に地下鉄東西線から離れた地域には今後とも増路線が必要である（生活支援バス）。
- ・地下鉄開通により、交通網は改善されましたが、観光施設に土産物店、トイレ、食事等が不足して受け入れが不十分では？観光客の増加が先ですね。発展途上の“やましな”は面白いです。
- ・低い評価になっていますが、以前より少しずつ良くなっていると感じています。
- ・阪神高速の料金が低い。
- ・拠点を中心に充実を図っていくことについては反対（一層の地域間格差が生じる）。バランスのとれた都市環境の充実を望む（そのためにもバランスのとれた資源の配分が必要）。
- ・（１）－１９・２０・２２，（２）－２３について、「道路空間の整備（人・自動車・車）」がまだまだ成っていないと痛感しています。一度「道路空間の整備（人・自動車・車）」に特化した討論会や区民の意識調査など大々的に行い、住みやすいまちになるために必要な道路を快適にすることについて、真剣に取り組んでいただきたいです。
- ・山科は旧道が多いため、歩道のある道が少なく、自転車の走行が危うい。
- ・地域全体として、交通安全に対する意識が高く、交通事故防止に向けた取組が活発に行われている。
- ・放置自転車の撤去台数が多いのに驚きました。放置しないやり方への妙案はないのでしょうか。
- ・ゲリラ豪雨への対策が明記されればいいと思いました。

基本施策 4		平均点	4 点	3 点	2 点	1 点	空白	25年度 平均点	24年度 平均点	23年度 平均点
保健・福祉・子育て支援を充実させる		3. 11	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	2. 97	3. 05	3. 13
28	①母子保健の充実	3. 11	7	17	4	0	15	3. 04	3. 03	3. 23
29	②就学前教育・保育の充実	3. 18	8	17	3	0	14	3. 07	3. 16	3. 17
30	③放課後児童対策の充実	3. 31	11	16	2	0	14	3. 11	3. 20	3. 18
31	④地域子育て支援の充実	3. 10	6	21	3	0	13	3. 11	3. 10	3. 30
32	⑤学校教育等の充実	3. 20	9	18	3	0	13	3. 08	3. 10	3. 06
33	⑥青少年の健全育成	2. 78	5	11	11	0	16	2. 88	3. 03	3. 10
34	①障がいのあるひととその家族への生活支援の充実	3. 10	8	17	5	0	13	2. 96	3. 08	3. 09
35	②障がいのあるひとの社会参加を守る環境づくりの推進	3. 03	7	18	6	0	12	2. 96	3. 03	3. 05
36	①高齢期の活動拡大の応援	3. 26	7	20	0	0	16	3. 08	3. 03	3. 13
37	②高齢期の生活と家族支援の充実	3. 38	11	14	1	0	17	2. 96	2. 92	3. 05
38	①健（検）診の実施と健康教育・相談の充実	3. 36	10	18	0	0	15	3. 19	3. 18	3. 28
39	②地域医療体制の充実	3. 14	5	22	1	0	15	3. 07	3. 18	3. 18
40	①人権文化が息づくまちづくり	3. 21	10	15	4	0	14	2. 89	3. 08	3. 24
41	②男女共同参画社会づくりの推進	2. 75	4	14	9	1	15	2. 62	2. 92	2. 97
42	③ユニバーサルデザインの普及、推進	2. 70	5	10	11	1	16	2. 46	2. 76	3. 00

【基本施策4:自由記述欄】

・ 全般的に社会的弱者に対して手を差し伸べようとしている姿勢は評価できるが、本当に支援を必要としている人にまで、取組が届いていない部分が多くある。「やりました」「やっています」ではなくて、どこまで進んだのか、どれだけの成果を生んで残された課題は何かを明らかにして、全ての人に施策が届くようにしてほしい。

・ 研修会や講演会による話し合いの場が多いですが、実習や実践の場が少ないと思います。地域ぐるみで人に寄り添うまちづくりの推進に取組めたらいいですね。

・ 山科に住んでいて正直なところ、「みんなにやさしいまち」だと感じる機会が少なすぎます。区民ひとりひとりの気持ちから進めていくことなので、大変難しいとは思いますが。

・ 老人、障害者が外出して、社会参加する人が少なく自治会、町内会、会費を納めることが少なく、社会的孤立が多くなった。

・ 各地域における少年補導活動、見守り活動が非常に活発に行われており、非行防止対策、健全育成に対する意識が高い。

・ (2)－34・35について、必要な情報を必要な人が得られる仕組みが足りていないと感じています。公平に得られる仕組みづくりを願います。

・ (5)－42について、これは、基本施策3－(1)・(2)と関わり、区内のバリアフリー化が進んでいないことが原因です。

基本施策 5		平均点	4 点	3 点	2 点	1 点	空白	25年度 平均点	24年度 平均点	23年度 平均点
地域のつながりを強める		3.29	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	(件数)	3.06	3.18	3.15
43	①地域コミュニティによる自治活動の展開	3.27	12	18	3	0	10	3.14	3.10	3.00
44	①NPO・ボランティア活動等の展開支援	3.48	16	11	2	0	14	2.97	3.18	3.30
45	②大学・地域・行政の連携強化	3.24	11	19	3	0	10	3.21	3.10	2.97
46	①地域の福祉力の強化	3.31	13	16	3	0	11	3.24	3.19	3.34
47	②地域防犯体制の強化と生活安全対策の充実	3.42	15	14	2	0	12	3.18	3.38	3.20
48	③地域防災・危機管理体制の強化	3.15	8	22	3	0	10	2.86	3.18	3.13
49	①協働まちづくり推進の体制強化	3.18	10	13	5	0	15	2.81	3.06	3.05
50	②行政サービスの利便性向上	3.23	10	18	3	0	12	3.10	3.23	3.20

【基本施策5: 自由記述欄】

- ・（１）－４３について、地域コミュニティの活性化に全体として成功しているとは言えない。NPO、地域団体、学校などと、町内会・自治会との新たな連携の枠組みを考える必要がある。区内の活動を丁寧に見ると、その芽はあちこちで生まれているのだが、それを評価できる目と組織する力が育っていない。
- ・ 山科区内一部の人たちは非常に活発に活動されていますが、より多くの人たちが参加いただける体制作りに検討の余地があるのでは。オール山科の取組を望みます。
- ・ 山科“きずな”支援事業がとて多くのつながりを生んでいるのを感じています。
- ・（３）－４６について、今の時代に則したものになっていない。既存のもの（〇〇大会など）を見直し、区民が必要な希望する取組に変わる必要があると思います。そして、区社協のHPについて、京都市内の各区社協の中で唯一古い（更新されていない）HPです。外へ出かけられない人でも見ることによって、情報が得られるよう生きたHPに改善してほしいです。
- ・ 会の行事、町内会の行事に参加しない。個人情報もあり無理に参加させることが難しい。
- ・ 各地域（学区）単位の絆が深く、安心・安全の実現に向けた取組が活発に行われている。

【評価全体に係る自由記述欄】 ※施策全体の評価や評価方法について記載

- ・ 取組の数だけ見ても、項目によって大きなバラツキがある。これは何を意味しているのかを考えなければいけない。また、区独自で取り組めることには、大きな制約があり、全体としては京都市全体の中で、位置づけないと解決できないことも多いが、そうしたことを評価できる資料もないし、議論の場もない。「まち」はいきているものであり、全ての連関の中で様々な姿を見せているのだから、その中の50の取組だけを取り上げて検討しても、「木を見て森を見なり」が如く、「まち」が見えてこない部分があるということを認識した上での検討が必要である。
- ・ 山科区は、行政と地域の連携が良く、全ての行事に多くの区民が集まり、結束される安心安全な住みよい素晴らしい区だと思います。これからも、行政の指導の下、より良い環境と活力溢れるまちづくりに、官民産学一体となって取り組んでください。
- ・ 評価に関することではありませんが、上下水道局としましても、お客さまサービス・満足度の更なる向上に取り組んでおります。山科区役所様と連携させていただき、何か協力、お手伝いさせていただくことがありましたらお客さま（市民、区民の方々）といっしょに活動（PR）したいと考えております。今後ともよろしくお願いいたします。
- ・ 現行の進捗評価表においては、各基本方針の取組名を具体的に列挙して、「これもあれも取り組んでいる」ということで、ややもすれば自己満足に陥っている面があるように思う。今後は、「どのようなことを取り組めばよいか、どのような問題、課題があるか」といった点を明らかにする必要があるのではないか。そして、明らかになった問題点、課題、取組事項を対処していくようにすれば良いのでは。
- ・ 昨年のまちづくり会議で出された評価方法についての意見をしっかりとくみ上げたより分かりやすく意見しやすい回答方法になったと思います。引き続きよろしくお願いいたします。
- ・ 去年よりもいろいろ動きがあったように思われます。
- ・ 市全体の取組だけで、区独自の取組がないものは評価が難しいと感じます。取組内容と取組事業の関連が分かりにくいものは今後検討が必要だと感じます。（取組事業の達成によって取組、基本方針の効果につながるのかが分かりにくいものがある）

「第2期山科区基本計画」に基づく取組の平成27年度実施計画 及び平成26年度進捗評価表

表の見方

5つの基本施策を記載
しています。

20の基本方針を記載
しています。

4段階で評価されたの点数を
記載しています。

基本施策1：環境を守り継ぐ

(1) うるおい・自然を大切に

評価	3.10	3.04	3.06	3.19
評価	3.09	3.06	3.10	3.16

50の取組	23年度	24年度	25年度	26年度
・区内を流れる河川・疏水を軸として、区民生活のうるおい空間の創出・充実を図ります。				
・地域ぐるみでまちを花と緑で彩るため、「花いっぱい運動」などの取組を一層進めるとともに、「グリーンカーテン運動」などの取組を進めていきます。				

50の取組名を記載
しています。

平成26年度の各取組の参考指標(事業概要
等)を記載しています。(全市)などの記載が
ない限り、区内における取組の指標を表してい
ます。

50の取組	実施又は未実施				参考指標(事業概要・予算規模・数値目標等)
	23年度	24年度	25年度	26年度	
・花いっぱい運動【⑩～】(女性会)	○	○	○	○	各学区、外環1条、新入石道等で花植えを実施。
・京(みやこ)のまちなか緑化助成制度【⑬～】(市)	○	○	○	○	民有の敷地や建築物壁面、屋上で行われる緑化(新たに植栽されるものに限る)に対して助成を行っている。 ・予算:4,650万円(全市) ・助成件数:1,000件(全市) 【内訳】 地上緑化(庭園緑化) 500件 屋上緑化(壁面緑化) 500件
・山科区フラワーロード推進事業【⑭～】	○	○	○	○	山科区をさまざまな花で自然豊かなまちにする目的で実施。平成27年3月27日に、東山自然緑地にヤマザクラを植栽。 ・募金者数:17件
・「ふれあいやまなし」実行委員会、区民、NPO法人京の園芸福祉研究会、山科経済同友会、山科区地域女性連合会、東部農業振興センター、市	○	○	○	○	花と緑のまちづくりサポーターが月一回程度、花苗の育成やJR山科駅前のスタンディングバス
・音羽小学校での「音羽ふれあいガーデン」の整備【⑮～】(音羽小学校、音羽小学校花いっぱいボランティア)	○	○	○	○	整備は平成24年に完了。現在は、定期的な清掃活動や花の苗の植え替え作業を行っている。

各種団体や行政機関から挙げていただいた取組を、「50の取組」ごとに記載しています。

各取組の平成23年度から平成26年度までの実施状況について、実施されたものは○、未実施だったものは／を記載しています。

取組を実施した各種団体や行政機関名等を記載しています。

取組を開始した年度を記載しています。
※例【⑪～】→⑪年度から取組が始まったことを意味します。
※前計画が平成13年度からの計画であるため13年度以前からの取組は全て、【⑬～】と記載しています。

基本施策1：環境を守り継ぐ		評価	3.10	3.04	3.06	3.19
(1) うるおい・自然を大切にする		評価	3.09	3.06	3.10	3.16
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・区内を流れる河川・疏水を軸として、区民生活に身近な水と緑のうるおい空間の創出・充実を図ります。					
	・地域ぐるみでまちを花と緑で彩るため、「花いっぱい運動」の取組を一層進めるとともに、「グリーンカーテン運動」などの取組も進めていきます。	3.20	3.20	3.30	3.38	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・花いっぱい運動【⑬～】(女性会)		○	○	○	○	各学区、外環十条、新大石道等で花植えを実施。
・京(みやこ)のまちなか緑化助成制度【⑬～】(市)		○	○	○	○	民有の敷地や建築物壁面、屋上で行われる緑化(新たに植栽されるものに限る)に対して助成を行っている。 ・予算:4,657千円(全市) ・助成件数:13件(237㎡)(全市) 【内訳】 地上緑化(11件) 屋上緑化(1件) 壁面緑化(1件)
・山科区民花の同郷募金(山科区民さくら募金⑩～⑫から移行)【⑭～】(ふれあい"やましな"実行委員会、区民)		○	○	○	○	山科区をさまざまな花で自然豊かなまちにする目的で実施。平成27年3月27日に、東山自然緑地にヤマザクラを植栽。 ・募金者数:17件
・山科区フラワーロード推進事業【⑭～】 □(ふれあい"やましな"実行委員会、区民、NPO法人京の園芸福祉研究会、山科経済同友会、山科区地域女性連合会、東部農業振興センター、市)		○	○	○	○	花と緑のまちづくりサポーターが月一回程度、花苗の育成やJR山科駅前のスタンディングバスケットの植栽を実施。 ・サポーター:54人 ・予算:380千円
・音羽小学校での「音羽ふれあいガーデン」の整備【⑭～】(音羽小学校、音羽小学校花いっぱいボランティア)		○	○	○	○	整備は平成21年に完了。現在は、定期的な清掃活動や花の苗の植え替え作業を行っている。
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・公園・緑地等の整備を図り、公園愛護協会や地域住民とともに適切な維持・管理を行います。	3.02	2.92	2.93	2.94	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・公園愛護協会や地域住民による公園の維持管理の取組【⑮～】(公園愛護協力会、自治連合会他)		○	○	○	○	区内84箇所の公園で地域住民の参加により、60の公園愛護協会が結成されており、月1回以上のペースで維持管理の取組を行っている。
「ふれあいの森」(安祥寺山国有林)【⑮～】 ・(京都インストラクター会、京都府ウォーキング協会、林野庁京都大阪森林管理事務所)		○	○	○	○	伐採や枝打ち、歩道整備等の作業を実施。 ・実施回数:8回
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・山科の地にもともとあった生態系・生物多様性を尊重しながら、残された自然環境の保全を図り、また、ひとの暮らしとともに森林・河川の環境を守っていきます。					
	・環境にかかわる市民活動を促進・支援し、河川美化に努めて、ホタルの飛び交うまちづくりを進めていきます。	3.05	3.05	3.07	3.18	
	・市が選定する「京の山仙人(そまびと)工房」の山科区モデル工房「自然住宅情報ひろば」を窓口として、森林資源を有効に生かした住まい・まちづくりの推進を図ります。					
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・美化推進強化区域における清掃活動【⑯～】(市等)		○	○	○	○	【東山自然緑地地域】毘沙門堂周辺(山間部分)を山科まち美化事務所、東部土木事務所等でごみを撤去(随時) 【牛尾山区域】1大塚学区で牛尾山のトイレ及び広場一帯の定期清掃の実施 2山科まち美化事務所、東部土木事務所等でパトロールとごみの撤去(随時) 【山科駅区域】山科まち美化事務所週1回(火)に定期清掃を実施
・四ノ宮川の水質分析、河川パトロール・河川清掃【⑰～】(美推協)		○	○	○	○	水質分析3ヶ所、河川パトロール・河川清掃2回(区内4河川)を実施。 ・参加者数:139名
・上郡における歴史的風土の保存に関する特別措置法、京都市風致地区条例、京都市自然風景保全条例に基づく規制・指導【⑱～】(市)		○	○	○	○	歴史的風土保存区域、風致地区、自然風景保全地区内における建築物の新築、宅地の造成等の現状変更行為について、関係法令等に基づき規制指導を行う。
・河川清掃【⑱～】(各学区自治連合会他)		○	○	○	○	
・安祥寺川クリーン大作戦【⑲～】(安楽小PTA)		○	○	○	○	毎年、夏休みに校内の他の河川清掃と同日に実施。平成26年度は、7月19日に実施した。 ・参加者数:約40名
・「京の山仙人(そまびと)工房」の運営【⑳～】(市)		○	○	○	○	京都市産材を使った工房として、森林、林業、木材等に興味を持ってもらう情報発信拠点として木のフォーラムを開催。 ・開催回数:1回(全市) ・参加者数:33名(全市)

(2) 地球環境問題対策のため行動する		評価	2.89	2.73	2.67	3.13
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・エコ活動の輪をさらに広げるため、「DO YOU KYOTO?」プロジェクトに区全体で取り組み、地域ぐるみの省エネルギー・省資源を実践するなど、都市活動全般を通じたエコアクションを総合的に展開します。	2.89	2.73	2.67	3.13	
	・区全体でライフスタイルの見直しを進めることにより、脱「クルマ中心」社会による「歩くまち・京都」の実現を図っていきます。					
	・空調の温度設定の適正化や照明消費電力の低減等、区民生活や事業活動における省エネルギー、また、太陽光や森林バイオマス等の再生可能な新エネルギーの積極的な利用を進めます。					
・国際規格ISO14001やKES等の環境マネジメントシステムの普及、認証取得等、環境に配慮した事業活動への転換を図ります。						
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
京（みやこ）のアジェンダ21の推進【⑩～】（市、京のアジェンダ21フォーラム）		○	○	○	○	区内のイベント会場や公共施設等で、家庭の省エネ相談所を開催。 ・開催回数:ふれあい山科区民まつり等4会場 ・合計相談件数:220件
京都市役所グリーン調達推進方針に基づく取組【⑩～】（市）		○	○	○	○	「京都市役所グリーン調達推進方針」に基づき、庁内における環境への負荷の少ない物品等の調達を推進する。 ・数値目標（平成32年度までに全市で）： 消耗品の環境対応品の購入率80%以上 備品の環境対応品の購入率85%以上 ・上半期山科実績： 消耗品の環境対応品購入率77%
「KES環境マネジメントシステムスタンダード」の認証を目指す事業所に対する個別アドバイス【⑩～⑬】（市）【⑬で終了】		○				
健康・環境フォーラムの開催【⑩～】（保健協、女性会、ごみ減量推進会議他）		○	○	○	○	11月5日に「アスニー山科」にて中村仁一氏による講演を開催。 ・参加者数:約250名
京都グリーン購入ネットワーク設立【⑩～】（事業者、市他）		○	○	○	○	環境物品等及び環境に配慮した事業活動に関する情報を収集し、事業者、市民等に迅速かつ効果的に提供するとともに、事業者、市民等が環境物品等を優先的に購入することを促進する。 ・ニュースレター発行回数:4回 ・事業者向け情報交換会実施回数:1回 ・宿泊施設及び商店の省エネ・環境保全活動推進事業実施回数:宿泊施設2、商店1 ※事業者向け情報交換会、宿泊施設及び商店の省エネ・環境保全活動推進事業については山科区外で実施
KES構築講座の開催【⑩～】（市）		○	○	○	○	事業者等の経営に当たり環境への負荷を管理・低減するための環境マネジメント規格「KES」認証取得の推進。 ・参加者数:30名(全市) ・予算:省エネルギー型事業活動の促進事業(302千円)の内数
京（みやこ）エコドライブ宣言【⑩～】（市）		○	○	○	○	市民、事業者等に自ら取り組むエコドライブの項目を宣言していただくことでエコドライブの普及促進を図る。 ・エコドライブ宣言者数:136,547名(全市、27年3月末) ・予算:エコドライブ推進事業(3,841千円)の内数
エコドライブ推進事業所の募集【⑩～】（市）		○	○	○	○	事業所単位でエコドライブの実践及び普及啓発に積極的に取り組む者を登録し、社内研修への講師派遣等の取組支援を実施。 ・エコドライブ推進事業所数(区内):79事業所(27年3月末、全市:852事業所) ・予算:エコドライブ推進事業(3,841千円)の内数
「DO YOU KYOTO?」プロジェクトの実施【⑩～】（市）		○	○	○	○	・「DO YOU KYOTO?」プロジェクト関連事業協力社数: 251社(全市) ・「DO YOU KYOTO?」プロジェクト関連事業への参加者数: 集計中 ・交通事業者との連携: 「DO YOU KYOTO?」ラッピングバスの運行、地下鉄への広告掲出、嵐電ラッピング車両の運行、民間交通事業者への広告掲出 ※参考 ⑬ ・「DO YOU KYOTO?」プロジェクト関連事業協力社数: 251社(全市) ・「DO YOU KYOTO?」プロジェクト関連事業への参加者数: 621,382名(全市) ・交通事業者との連携: 「DO YOU KYOTO?」ラッピングバスの運行及び地下鉄への広告掲出
京都市地球温暖化対策条例の推進【⑩～】（市）		○	○	○	○	
「京都市役所CO2削減率先実行計画」に基づく省エネの推進及び再生可能エネルギーの導入促進【⑩～】（市）		○	○	○	○	「京都市役所CO2削減率先実行計画」に基づき、KYOMS(京都市役所環境マネジメントシステム)の仕組みを利用しながら、省エネの推進等に取り組む。 数値目標:平成32年度までに電気及びガスの使用量を平成22年度比9.5%削減(平成26年度実績は集計中)
DO YOU KYOTO?クレジット制度を利用したコミュニティ及び中小事業者の省エネの推進【⑩～】（市）		○	○	○	○	コミュニティによるCO2の削減量を、取引可能なクレジットとして本市が認証し、クレジット量に応じた創出奨励金を交付する。 ・予算:6,000千円(全市) ・認証量:39件591.6t(全市) ・奨励金:4,364千円(全市)
全学区におけるエコ学区の推進【⑩～】（山科区エコ学区推進協議会（自治連合会、市民ぐるみ運動山科区推進本部））		○	○	○	○	平成23年度から低炭素のモデル地区「エコ学区事業」に取り組んでいる。平成26年度は、エコ学区支援物品の展示、貸出及び活用と山科「エコ学区」ミーティングを行った。 ・山科「エコ学区」ミーティング参加者数:31名

(3) ごみを減らし、まちをきれいにする

(3) ごみを減らし、まちをきれいにする		評価	3.22	3.14	3.18	3.29
50の取組	・資源物の分別の徹底とコミュニティ回収の推進等、区民生活や事業活動におけるごみ減量・リサイクルを推進します。また、省資源並びにごみの発生抑制とリユース・リサイクルの総合的な取組を推進していきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.24	3.15	3.21	3.40	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)				
缶・びん・ペットボトルの分別収集【⑬～】及び選挙におけるごみの分別開始【⑭～】(区民、事業者、市、ごみ減量推進会議、保健協)		○	○	○	○	各地域の収集定点にて週1回収集を行っている。 ・回収量:12, 976トン(全市)
厨芥類の分別収集、再資源化の手法の検討【⑬～⑳】(市)【㉔で終了】		○				
牛乳パック、乾電池の拠点回収【⑬～】(区民、事業者、市)		○	○	○	○	・回収量:牛乳パック55トン(全市)、乾電池86トン(全市) ・回収拠点数:牛乳パック320箇所(全市)、乾電池336箇所(全市)
古紙(秘密書類)などの集団回収【⑬～】(地域ごみ減量推進会議、各学区女性会、保育所(園)、山科経済同友会、区民、市他)		○	○	○	○	各地域ごみ減量推進会議において、独自のごみ減量活動の一つとして、古紙回収・リサイクルを実施している。
「めぐるくんの店」…簡易包装の推進、再生品の販売、食品トレイや牛乳パックなどの店頭回収【⑬～】(区民、事業者)【㉔で終了】		○	○			
地域ごみ減量推進会議の設立【⑬～】(市、地域ごみ減量推進会議)		○	○	○	○	13学区全てにおいて地域ごみ減量推進会議設立済み。 (平成9年度より各学区において順次設立)
使用済てんぷら油(廃食用油)の回収【⑬～】(市他)		○	○	○	○	地球温暖化防止の観点から、バイオディーゼル燃料を精製し、ごみ収集車や市バスに使用するため、その原料として家庭から出る使用済てんぷら油の回収を実施。 ・予算:30, 500千円(全市)
バイオディーゼル燃料化事業【⑬～:㉔～廃食用油燃料化施設の稼働】(市)		○	○	○	○	家庭からの使用済みてんぷら油を回収して、バイオディーゼル燃料に再生し、ごみ収集車や市バスで利用している。
生きびん(リターナブルびん)等の拠点回収【⑬～】(区民、事業者、市)		○	○	○	○	・使用済みてんぷら油回収拠点(山科区役所管内):106拠点 リサイクルより環境負荷の小さいリユースびん(リターナブルびん)の利用促進のため、回収拠点にボックスを設置し、リユースびんの回収を実施している。 ・予算:19, 800千円(全市)
小型金属類の分別収集【⑭～】(区民、市)		○	○	○	○	平成14年度より月1回の分別回収を行っている。
プラスチック製容器包装の分別収集【⑬～】(区民、市)		○	○	○	○	平成19年10月から全地域に拡大し分別収集を実施している。 ・太陽光発電システム(平成15年助成開始):1, 301件(内山科区131件) ・蓄電システム(平成24年助成開始):166件(内山科区15件) ・太陽熱利用システム(平成24年助成開始):10件(内山科区0件) ・家庭用燃料電池システム(平成26年助成開始):743件(内山科区71件) ・HEMS(平成26年助成開始):138件(内山科区21件)
住宅用太陽光発電システム設置助成制度【⑮～】(市)		○	○	○	○	京都市役所独自の環境マネジメントシステムの運用による環境負荷の低減を実施。(対象:オフィス系関連庁舎(市役所本庁舎(関連ビル含む)、消防局本部庁舎、交通局本庁舎、上下水道局本庁舎、全ての区役所・支所)にある所属) ・予算:1, 500千円(全市)
京都市役所における独自の環境マネジメントシステム「KYOMS(キョウムス)」の取組【㉔～】(市)		○	○	○	○	ふれあい"やましな"区民まつり(平成26年11月23日開催)の模擬店コーナーでリユース食器等を使用し、ごみの減量を推進した。 ・予算:230千円
区民まつりにおけるリサイクル容器などの使用【⑮～】(ふれあい"やましな"実行委員会)		○	○	○	○	
パソコンの回収・リサイクルの開始【⑮～】(区民、事業者)		○	○	○	○	廃棄物の減量及び再生資源等の利用を図るため、使用済自動車のリサイクル及び適正処理の推進を目的として平成17年1月に完全施行した通称自動車リサイクル法に基づき、関連事業者の登録・許可業務を行っている。
自動車リサイクルの開始【⑮～】(市、区民、事業者)		○	○	○	○	地域の自主的なごみ減量・リサイクルの取組を支援するため、古紙類や古着類などの資源物を回収する団体に助成を実施している。 ・予算:51, 200千円(全市)
コミュニティ回収制度の取組【⑮～】(市)		○	○	○	○	各学区が協力して回収し、「車いす」を老人施設や学校に進呈した。 回収拠点検索HP「リユースびんマップ・きょうと」を運用している。
プラタプの回収【⑮～】(各学区女性会)		○	○	○	○	「みんなで目指そう!ごみ半減!循環のまち・京都プラン」京都市循環型社会推進基本計画(2009-2020)に掲げるごみ減量の取組を推進しつつ、計画の改定を行った。
リユースびん流通システム【⑮～】(市ごみ減量推進会議)		○	○	○	○	資源の有効利用と環境負荷の低減に向けたごみ減量の取組として、使用済小型家電の回収を実施。 ・回収量(再資源化実績量):23, 460kg(全市)
京都市循環型社会推進基本計画の推進【㉔～】(市)		○	○	○	○	
使用済小型家電の回収・リサイクル【㉔～】(市)		○	○	○	○	
包装紙等の雑がみの分別リサイクル拡大に向けた社会実験【㉔】(市他)				○		
移動式拠点回収【㉔～】(市)					○	資源物の回収を促進するため、まち美化事務所が地域の身近な場所に出向き、「資源物」や「有害・危険ごみ」を回収する、移動式拠点回収を実施している。 ・予算:22, 700千円(全市)
雑がみ等の紙ごみの分別・リサイクルの徹底推進【㉔～】(市)					○	家庭から出る燃やすごみの中に多く含まれている「雑がみ」の分別・リサイクルの徹底を、平成26年6月から全市で推進している。 ・予算:15, 000千円
生ごみ・落ち葉などの堆肥化活動助成制度【㉔～】(市)		○	○	○	○	家庭から出る燃やすごみの中に多く含まれている「生ごみ」の減量を図るため、生ごみなどの堆肥化活動を行う団体に助成を実施している。 ・予算:12, 900千円(全市) ※家庭用電動式生ごみ処理機、生ごみコンポスト容器購入助成に係る予算も含む。

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・東部山間埋立処分地（エコランド音羽の杜）の維持管理や状況把握に努めて、廃棄物の適正処理を行うとともに、クリーンキャンペーンや不法投棄防止のパトロール等、環境美化の諸活動に取り組んでいます。	3.21	3.13	3.15	3.18
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
・	環境パトロール隊による監視（大岩街道の野外焼却行為の監視）〔⑬～〕（市）	○	○	○	○
・	東部山間埋立処分地（エコランド音羽の杜）の維持運営〔⑬～〕（市他）	○	○	○	○
・	美化推進条例の推進〔⑭～〕（市）	○	○	○	○
・	不法投棄対策事業：監視パトロールと撤去並びに撤去場所へフラワーボットの設置〔⑭～〕（まち美化事務所）	○	○	○	○
・	地域の清掃活動〔⑭～〕（自治連合会、女性会、保健協、老人クラブ、美推協、区他）	○	○	○	○
・	山科区2万人まち美化作戦の実施〔⑮～〕（自治連合会、市民ぐるみ運動山科区推進本部他）	○	○	○	○
・	焼却灰溶融施設建設事業〔⑯～〕（市）	○	○	○	○
・	防鳥用ネット（カラスネット）貸与〔⑯～〕（市）	○	○	○	○
		監視パトロールを実施。 ・職員による監視：週3回（廃棄物指導課）、2週間に1回程度（関係各課） ・警備委託：週4回（平日昼間週2回、平日早朝週1回、休日週1回） 東部山間埋立処分地（エコランド音羽の杜）の維持管理に伴う付帯工事を実施。 ・予算：255,860千円 地域、市民、事業者と共にまちの美化事業を推進し、世界「美しいまち・京都を目指す」。 ・予算23,802千円（全市） ごみの散乱及び不法投棄の防止に向けた取組を進め、快適な生活環境の保全、国際文化観光都市としての良好な都市環境の形成を目指す。 ・予算：171,611千円（全市） 毎月1回自分たちの地域の清掃活動を行い、環境の美化に努めている。 平成26年6月1日に各学区、各種団体による一斉清掃、各家庭、地域での門掃き、違反広告物の撤去を行った。 ・参加人数：13学区14団体 16,554人 焼却灰溶融施設のプラント設備工事の契約解除後、平成26年3月20日に住友重機械工業株式会社に対して、損害賠償等を求める訴えを京都地方裁判所に提起し、現在、係属中である。 カラス等によるごみの散乱防止のため、市が収集するごみ収集場所（概ね5世帯以上）ごとに、防鳥用ネットを無償で貸し出している。 ・予算：13,000千円（全市）			

(4) 環境について学ぶ		評価	3.11	3.08	3.12	3.09
50の取組	・環境に対する意識の高い次世代の育成。また、子どもを通じた大人への環境意識の普及を重視し、学校教育において、体験型の環境学習活動を一層充実させていきます。 ・「山科区エコアクション№1宣言」を踏まえた環境イベントの展開。また、多様な環境学習機会の提供によって、環境に対する意識を高めていきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.11	3.08	3.12	3.09	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)				
・京都市環境保全活動支援事業【⑬～】（市、⑬～京エコロジーセンター）		○	○	○	○	市内の小学4・5年生を対象に、学校単位で行う団体見学プログラムとしてエコ学習を実施。 ・参加者数:151校、4,949名(全市) ・参加者数:147校、4,354人(全市)
・環境に関する学習会等の開催【⑬～】(女性会、美推協)		○	○	○	○	「市民スクール21」の中で、環境学習を実施。
・小・中学校での環境学習【⑬～】(小・中学校)		○	○	○	○	
・「市民環境講座」の開催【⑬～】(市)		○	○	○	○	・出前トークの開催回数:4回(全市。山科区での開催はなし)
・広報誌「京都市環境情報」の発行【⑬～㉔】(市)【㉔で終了】		○				
・区民まつりにおける環境コーナー等の設置【⑬～】(ふれあい“やましな”実行委員会)		○	○	○	○	平成26年11月23日に開催された「区民まつり」において、「エコやましな」をテーマに、模擬店でのリユース食器やリサイクルトレイを使用した。さらに、小学生を対象にエコスタンプラリーを今回新たに実施した。
・環境学習山前講座の実施【⑬～】(地域ごみ減量推進会議)		○	○	○	○	陵ヶ岡小学校において実施した。
・小学生へのごみ収集の環境学習【⑬～】(まち美化事務所)		○	○	○	○	まち美化事務所・エコまちステーションが児童館などに出向き、ごみの分別などの環境学習を実施している。
・河川パトロールの実施【⑬～】(市民ぐるみ運動山科区推進本部)		○	○	○	○	平成26年6月1日「山科区2万人まち美化作戦」の取り組みに合わせて四ノ宮川での河川パトロールを行った。
・京都環境賞表彰【⑬～】(市)		○	○	○	○	先進的・斬新的な環境保全に関する活動を行っている個人・団体を顕彰。 ・応募等数:52件(全市) ・予算:1,068千円(全市)
・環境フォーラムの開催【⑬～】(保健協他)		○	○	○	○	区民に健康や環境問題について考えていただくきっかけとなるよう、山科保健協議会連合会、山科区地域女性連合会、山科区老人クラブ連合会及び山科区ごみ減量推進会議を構成メンバーとする実行委員会を組織し、企画並びに運営に取り組む。平成26年度は「健康」をテーマに講演会を開催した。
・京都市地球温暖化対策条例の施行【⑬～】(市)		○	○	○	○	
・家庭用電動式生ごみ処理機、生ごみコンポスト容器購入助成【⑬～】(市)		○	○	○	○	家庭から出る燃やすごみの中に多く含まれている「生ごみ」の減量を図るため、家庭で気軽に堆肥化活動を行うことができるよう、「家庭用電動式生ごみ処理機」又は「生ごみコンポスト容器」を購入した方に助成を実施している。 予算:12,900千円(全市) ※生ごみ・落ち葉などの堆肥化活動助成制度に係る予算も含む。
・市立小学校でのこどもエコライフチャレンジの実施【⑬～】(市)		○	○	○	○	平成22年度から、市立小学校において全校実施。また、平成26年度より、長期休暇期間に親子エコライフチャレンジ(体験型学習会)を開催。 ・実施校数:166校(全市、うち山科区13校、㉔も同数) ・親子エコライフチャレンジ(体験型学習会)開催回数:13回(全市、うち山科区2回)
・森林バイオマス活用推進事業の実施【㉔で終了】(市)		○	○			
・山科区エコアクション№1宣言【㉔～】(自治連合会、市民ぐるみ運動山科区推進本部)		○	○	○	○	市内で最も環境に配慮した行政区を指した事業(環境イベントの開催、各家庭や企業の個性的な取組を募集する「みんなのエコアクション!山科」)の実施。 ○環境イベントの開催 日時:平成26年9月13日 場所:山科区役所 内容:かえっこバザールの開催 地産地消啓発ブース ごみ減量啓発ブース 環境啓発ブース 参加数:約500人
・環境施設見学会「ごみ減量エコパスツアー」の実施【㉔～】(市)		○	○	○	○	・実施回数:99回(全市) ・予算:4,100千円(全市)
・環境施設見学会「保健委員研修」の実施【⑬～㉔】(市、保健協)【㉔で終了】		○				

基本施策2：まちの魅力・観光を磨く

(1) 山科の魅力・観光を育てる

基本施策2：まちの魅力・観光を磨く		評価	3.02	2.96	2.96	3.02
(1) 山科の魅力・観光を育てる		評価	3.19	3.12	3.11	3.13
50の取組	・各種のガイドブックやマップ、インターネット等を有効に活用するとともに、清水焼による陶灯路の設置をはじめ、ウォークラリーやスタンブラリー等の「歩いて楽しい山科体感型」イベントの展開を通じて、山科の魅力の発信を強めていきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.37	3.33	3.48	3.55	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
「やましなを歩く」の配布及びホームページでの発信【⑬～】（山科の歴史を知る会）		○	○	○	○	
「やましな栄誉賞」の創設・表彰の実施【⑩～】（山科経済同友会、自治連、清水焼団地協同組合他）		○	○	○	○	
山科三条街道商店会の活性化に向けた取組【⑩～】（山科三条街道商店会、京都橋大学）		○	○	○	○	
「山科夢舞台」の実施【⑭～】（経済同友会、京都橋大学、京都薬科大学、洛東高校、東稜高校）		○	○	○	○	
おこしやすやましな協議会の運営、観光PR活動【⑭～】（NPO法人おこしやすやましな協議会）		○	○	○	○	
陶器を使った灯りイベント「やましな駅前陶灯路」の実施【⑭～】（関係団体）		○	○	○	○	
地元の名産品や伝統工芸品を出張販売する「やましな薬市」の取組【⑭～】【⑭】		○	○	△	△	
光のイベント「七夕陶灯路」の開催【⑭～】（京都橋大学）		○	○	○	○	
京都・やましな観光ウィークの実施【⑭～⑭】【⑭で終了】、（山科・感動ツーリズム推進事業に統合して実施）（京都・やましなウィーク実行委員会）		○	○	○	○	
「へんてこ運動会」の開催【⑭～】（山科おやじの会連絡会）		○	○	○	○	
山科の地蔵さんマップの作成・展示【⑭～⑭】【⑭で終了】（ふるさととの良さを活かしたまちづくりを進める会）		○	○	○	○	
「陶灯路」魅力発信プロジェクトの実施【⑭】（区）【⑭で終了】		○	△	△	△	
大津歴史博物館企画展への共同研究及び資料提供【⑭】（山科の歴史を知る会）【⑭で終了】		○	△	△	△	
山科の歴史を記録・紹介する冊子の作成【⑭～】（山科の歴史を知る会）		○	○	○	○	
山科・感動ツーリズム推進事業【⑭～】（区）		△	△	○	○	
やましなY級グルメの実施【⑭～⑭】【⑭で終了】（区）		△	△	○	○	
琵琶湖疏水通船復活試行事業【⑭～】（市）		△	△	○	○	
【⑭新規】『ふるさと山科 歴史街道・史跡巡り』の実施【⑭～】（ふるさととの良さを活かしたまちづくりを進める会）		△	△	△	△	
【⑭新規】「山科の社寺や地域の歴史・魅力を学ぶ ふるさと講演会」の実施【⑭～】（ふるさととの良さを活かしたまちづくりを進める会）		△	△	△	△	

平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）	
第13回やましな栄誉賞表彰式（平成27年2月22日）を開催し、日本警察犬協会訓練士の竹本昌生氏にやましな栄誉賞を贈呈した。 やましな栄誉賞受賞者数（平成26年度末）：14名（やましな栄誉賞11名、やましな栄誉賞特別賞2名、やましな栄誉賞人賞1名）	
商店街マップの作成、三条街道わくわくフェスティバルの開催等京都橋大学と山科三条街道商店会の連携によるイベントを開催した。 「わくわくフェスティバル」には、京都橋大学学生がボランティアスタッフとして参加。	
平成27年2月1日に、11回日の取組として、山科・龍淵地域にある大学や高校の学生生徒を中心とした交流の場をつくり出し、健全な青少年の育成と地域活性化を目的に開催。 京都橋大学の「京炎それふれ！部～Tacchi～」、「和太鼓部」による公演等が行われた。	
“やましな”を京都市域の外へ発信し、山科を訪れる観光客の誘致を目的として活動を行い、観光案内板の設置や観光マップの作成、配布を通じて、山科の魅力を全国に発信した。 ・キャラバン隊を編成しての広報活動（平成27年3月17日、JR草津駅にて実施）参加者数：19名	
清水焼団地協同組合、京都橋大学、京都シティ開発株式会社が連携し、平成26年10月11日（土）に開催。7回日の昨年は、清水焼の陶灯器や切りガラスによる灯りの演出、オカリナアンサンブルの演奏会等が行われた。	
区内の寺院やイベント会場にて、和菓子や漬物など区内の名産品を出張販売。 平成26年7月4日、京都橋大学が送る夏の風物イベントとして開催。清水焼陶器や切子のグラスなどに水を張ってろうそくを浮かべ、優しい灯りで幻想的なムードを演出した。 10月から12月までの区内でイベントが集中する期間を「観光ウィーク」として設定し、この期間内のイベントを区内外に広く周知した。 また、「琵琶湖疏水通船復活」試行事業にあわせて、山科で乗下船される方をはじめ山科を訪れる方に、観光近辺を歩いて楽しんでいたけよう「山科散歩 疏水編」を発行した。 ※27年度から、山科・感動ツーリズム推進事業に統合し実施。	
・チラシ・ポスター発行部数 チラシ（A44頁）：15,000部、 B1ポスター：200枚×2種類 B3ポスター：2,000枚 冊子（山科散歩疏水編）：3000部 ・予算：1,000千円	
○『山科のお地蔵さんー山科の地蔵・地蔵盆調査報告書ー』（A5判320p・300部）を出版 ○『山科13学区の史跡とお地蔵さんめぐり』を実施（計20回） ・参加者数：延べ836名 ○『山科の地蔵盆調査結果報告会』を実施 ・参加者数：延べ152名 ・予算：1,356千円（全事業分）	
現在冊子の編集を進めている。	
・地元住民と行政、交通事業者、旅行会社等との協働の下、山科地域の潜在的な観光資源の掘り出し、磨き上げ、発信を行い、山科地域の観光振興を図るとともに、京都観光の地域的な分散化や地下鉄東西線の乗客増を図る。 ・毘沙門堂紅葉ライトアップ（平成26年11月15日～30日）、やましな大冒険（計11プログラム）、感動！やましなまるごとマルシェ（計3回）等のイベントを実施。 ・毘沙門堂ライトアップ来場者数：10,012人 ・予算額：11,000千円 ※参考 ⑭ ・毘沙門堂ライトアップ来場者数：10,619人 ・予算額：35,000千円	
山科産の野菜の更なる普及・促進を図るため、野菜の生産者、販売場所等を紹介する山科野菜ガイドの作成等の事業を実施した。 ・山科野菜ガイド（全16ページ）発行部数：7,000部	
琵琶湖疏水が市民生活や産業・文化を支えてきた建設の意義を改めて認識いただくことや、京都市と大津市を繋ぐ新たな観光資源を創出することにより、疏水沿線の天津・山科・岡崎地域の更なる活性化の源となることに寄与する事業。 本件はその試行事業で、その初回は、平成27年3月下旬から5月上旬までの16日間（休日等）に実施。 ・申込み件数：9,868件 ・延べ運行分数：192便（企業モニターを除く） ・乗船者数：1,088名（企業モニターを除く）	
※参考 ⑭ 山科の歴史街道や史跡を調査し、その成果を大型地図『山科区の歴史街道・史跡紹介地図』（仮称）にまとめ、区民に無料配布する。 ⑭⑭⑭ 区民対象の「ふるさと山科 歴史街道・史跡巡り」を3年間にわたり20回実施する。（1回の参加者は50名を想定） ⑭⑭⑭ 集積した資料（データ）を編集し、冊子『山科歴史街道・史跡紹介 資料集』（仮称）（A4判200p×3冊）を発刊する。 ・参加者目標：3年間で延べ1,000名 ・予算：460千円	
※参考 ⑭ ●山科の社寺や地域の歴史・魅力を学ぶために、区民対象の「ふるさと講演会」（計4回開催）を実施する。 ・参加者目標：延べ200名 ●講演記録や集積した資料を編集し、『山科の社寺や地域の歴史と魅力』（仮称）をシリーズで発刊する。参加目標、平成27年度は4回でのべ200名。 ・予算100千円	

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・区内に多くある遺跡・史跡等の歴史資源。市民に親しまれている一定の樹木等の適切な保全・保存を図るとともに、それらをまちの魅力・観光資源として一層活用していきます。				
	・山科・醍醐地域を中心に、宇治市、大津市等とも連携し、数々の歴史物語などをテーマに、一体的な観光振興を展開していきます。	3.37	3.33	3.48	3.13
	・自然、歴史、物産、文化的行事、商業集積等の多様な地域資源を再評価し、テーマやシンボル・キャラクターの活用等、集客力のあるイベント、商品やサービス等の開発と多角的な展開を図ります。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・保存樹の指定〔⑬～〕（区他）		○	○	○	○
・山科義上まつりの実施〔⑬～〕（山科義上まつり実行委員会）		○	○	○	○
・はねず踊り保存会の取組〔⑭～〕（はねず踊り保存会）		○	○	○	○
・小町まつり〔⑮～〕（順心院）		○	○	○	○
・観光案内板の設置〔⑯～〕（NPOおこしやす“やましな”協議会）		○	○	○	○
・京都大学花山天文台における天体観望会の実施〔⑳～〕（京都大学花山天文台）		○	○	○	○
・天文台基金野外コンサート〔㉑～〕（京都大学花山天文台）				○	○
・花山天文台Galleryweek〔㉒～〕（京都大学花山天文台）				○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		保存樹とは、「緑の基本計画」に基づく市街地の緑の保全活用のための施策として本市内の古木などを指定したものであり、平成13年度から平成17年度まで41件（47本）の保存樹を指定したが、指定後に7件（8本）の保存樹が指定解除となり、現在は34件（39本）となっている（平成27年3月末時点）。 （注）山科区は、現在3件の指定 毎年、保存樹に起因する第三者事故発生時の所有者負担軽減のための賠償責任保険に加入するほか、保存樹の樹勢維持等に関する助成事業や、巡回調査を実施している。 ・予算：1,473千円（全山） ・助成件数：5件（うち山科区2件） ・保存樹調査業務委託（うち山科区2件）			
		地域の健全なコミュニティ作りや、連帯感の育成、高揚を目的に行われている。 平成26年12月14日の開催で、40回目を迎えた。			
		平成26年11月15日（土）～30日（日）に第16回目として開催。 区内の寺院等14箇所に設置済。平成26年度は、看板の掲載内容等の確認を行い、JR山科駅前の看板の修繕を行った。			
		観測施設の公開、展示陳列と天文台スタッフによる解説。大型展望鏡での天体観望、4次元デジタル宇宙シアターの上映、京都大学関係者による講演会など。平成26年11月1日実施。 ・予算：1,000千円 ・参加者数：約300名			
		喜多郎作「古事記と宇宙」に合わせた宇宙映像の上映、喜多郎氏と高橋恵子氏による演奏、望遠鏡による天体観望他。平成26年10月4日実施。 ・予算：1,500千円 ・参加者数：約180名			
		花山天文台において宇宙をテーマとしたアート作品の展示及びワークショップ。平成26年10月～11月にかけての合計7日間実施。 ・予算：445千円 ・参加者数：約130名			
		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・観光基盤の核としての観点から、山科駅周辺地区の拠点性の強化とともに、既存の商店街や幹線道路等沿道型店舗の調和ある振興を図ります				
	・一定の観光資源が集積する地域等について、「京都の東の玄関口、山科」を基盤型観光の新たな拠点として機能を強化していきます。	2.98	2.73	2.74	2.72
	・地下鉄等を活用した観光ルートやサイクリング・ロード、バス路線、駐車場等の整備・充実により、観光客を山科の魅力・観光資源へ円滑に導く観光交通アクセスの確保・充実を図っていきます。				
	・NPOや観光ボランティア、商店街等の活動と連携するなかで、観光情報・案内の総合的・一元的な提供等、“もてなし力”の向上を図っていきます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・観光標識等の増設〔⑰～〕（市、ライオンズクラブ、清水堤団地協同組合）		○		○	○
・山科駅での「観光みちあんない事業」の実施〔⑱～〕（老人クラブ）		○	○	○	○
・「京都観光・日乗車券【山科・醍醐拡大版】」の発売〔㉔～〕（市）		○	○	○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		京都の町並みに調和したシンプルでわかりやすい観光案内標識の設置。 ・区内の設置数：21箇所			
		春と秋の時期に年2回開催。			
		山科地域への観光客の誘致を図るため、乗車券を発売するとともに、毎年、PRポスターや山科の4寺院の特別優待を記載したチラシを作成し、配架している。			

(2) 伝統産業・農業を守る		評価		2.83	2.67	2.60	2.80
50の取組		評価					
		23年度	24年度	25年度	26年度		
	・清水焼団地等の伝統産業の活性化を進めるとともに、定期市の開催等、観光資源の位置付けからの新たな展開を図っていきます。	2.92	2.83	2.74	3.03		
		実施又は未実施					
		23年度	24年度	25年度	26年度		
清水焼団地協同組合による郷（さと）まつり（旧：陶器まつり等）の実施〔⑬～〕（清水焼団地協同組合）		○	○	○	○	平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等） 京都ちーびずマルシェと連携し、地域のまつりとして陶器まつりを開催。 ・来場者数：9万人 ・予算：13,000千円	
山科なすをモチーフにしたゆるキャラ「もてなすくん」の作製・PR〔⑭～〕（山科地域商業ビジョン推進委員会）		○	○	○	○		
清水焼団地のキャラクター「きよまる」の作製・PR〔⑭～〕（清水焼団地協同組合）		○	○	○	○		

50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・区内に残る生産緑地について、安全な農産物の生産の場としての保全を図り、農産物の学校給食への積極的な使用や消費者グループの形成等、食育や地産地消の取組をさらに進めていきます。 ・まちのうまい資源・防災空間としての位置付けのもとで、農地空間の適切な保全を図っていきます。 ・市民農園や観光農園で、だれもが気軽に「農」に触れ、体験し楽しめる場としての充実を図り、観光・レクリエーションによるさらなる利用を進めていきます。	2.75	2.63	2.50	2.69	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・生産緑地事業：生産緑地振興対策事業（土地改良）〔⑮～〕（市）		／	○	○	○	平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等） 山科区勸修寺閑林寺地内でポンプ修理を実施。 ・事業費：302千円 市民農園の開設団体である「山科大宅農藝組合」への継続的な運営指導を実施。 農家の指導のもと、秋・冬野菜の栽培体験を実施。 ・参加者45名 ・予算70千円
・大宅農藝広場〔⑮～〕（東部農業振興センター）		○	○	○	○	
・ふれあい体験農場〔⑮～〕（東部農業振興センター）		○	○	○	○	
・「食教育」を目的とした旬の京野菜を使用した給食〔⑯～〕（小学校、市）		○	○	○	○	
京の旬野菜販売店ガイドブックの作成・配布〔⑯～〕（京の旬野菜協会）〔㉔で終了〕		○	○	○	／	
・東野駅での山科地域農家による旬野菜直売所の開設〔⑯～〕（市）		○	○	○	○	地下鉄駅ナカにおける旬野菜直売所「待ち食」に対する運営支援を実施。（6月まで雇用対策事業を実施、直売所は8月に閉鎖）。

50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・区内の伝統産業や農業について、産業・職業としての価値と魅力を高めることを支援するとともに、それを広く区民に発信し、後継者の確保・育成につなげていきます。	2.83	2.54	2.56	2.69	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・京の旬野菜推奨事業〔⑰～〕（市）		○	○	○	○	平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等） 京野菜の伝統を守り、更に発展させていくため、市内で生産される旬の野菜を供給する体制の整備、消費啓発を行う。 平成26年度は、残留農薬分析（8品目10検体、山科区はうち1検体）を委託により実施、駅ナカ直売所の設置、販売促進キャンペーン（6月20日～8月3日、10月20日～11月30日（京都府と共催））の取組を実施。 農産物の展示や品評会、即売会を実施。その他、市民向けの農業啓発コーナーも設置。 ・来場者数：約800名 山科なすを平成2年度から種子保存委託している。 一般市民を対象とした、山科なすの立毛品評会を開催。
・山科区農業祭の開催〔⑰～〕（山科区農業祭農産物共進会）		○	○	○	○	
・山科なす等の伝統野菜の種子保存〔⑰～〕（市）		○	○	○	○	
・山科なすの普及啓発〔㉔～〕（市）		○	○	○	○	

(3) 文化・学びを豊かにする		評価	3.00	3.00	3.14	3.05
50の取組	・ひとに対して山科の魅力を語り、山科の未来を拓く区民が増えるよう、学校教育等において山科の地域資源に触れて学ぶ機会を豊富に用意し、子どもに、 “わがまち山科を愛する心”を育んでいきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		2.90	2.98	3.17	3.00	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・史跡の探訪【⑬～】（ふれあい“やましな”実行委員会、やましなを語りつぐ会、ふるさとの会、車道・車石研究会）		○	○	○	○	山科の歴史や文化をはじめとした「山科の魅力」を探訪することによって、山科のことをより深く認識し、地域に対する愛着を高めることを目的として実施している。 平成26年については、10月13日に開催予定であったが、台風の接近のため開催を中止した。
・百々小学校における「昔体験村」の阪村【⑭～】（百々学区自治連合会、百々小学校）		○	○	○	○	
・山科の歴史を学ぶ科目「歴史FW（フィールドワーク）」の実施【⑮～】（洛東高校）		○	○	○	○	歴史フィールドワークは、本校24年度の学力伸長コースの希望者により構成される独自の科目であり、地元山科を中心に、京都の遺跡や寺社・文化財を探検し、歴史を身近なものに感じられることを目的に実施。 例年の地元のモデルコースとしては、山科本願寺（寺内町）の後を見る山科御坊、天智天皇ゆかりの御陵、赤穂事件（忠臣蔵）ゆかりの大河神社など多数設定している。 また、平成27年度は、大学や他の高校の先生をお招きして「歴史の醍醐味」の講義を行う予定。
・京都コーナーの中に新たに山科コーナーを設置【⑯～】（山科図書館）			○	○	○	
・「山科を知ろう」シリーズ講演会【⑰～】（山科図書館）			○	○	○	・開催回数:5回
・小学生向き地域ガイドブック「歩こう！だいすき山科」区内全小学生に配布【⑱～】（NPO法人山科醍醐こどものひろば）				○	○	

50の取組	評価	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・アスニー山科などにおける各種講座・教室等の場と機会づくり、また、山科図書館等の学習支援資源の充実により、多様な生涯学習を展開します。	3.03	3.10	3.17	3.09		
・京都市生涯学習情報検索システム「京（みやこ）まなびネット」を活用した生涯学習情報の受発信の充実を図るとともに、諸活動のネットワーク形成、リーダー養成等に努めます。						
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・新規出版図書の収集【①～】（山科図書館）		○	○	○	○	
・「（『京・ライブラリーネット』を始めとする）図書館情報システム」や「公立図書館の相互貸借制度」、 「（府・市の公立図書館における）図書運搬システム」などの活用による他図書館所蔵図書の利用【②～】（山科図書館他）		○	○	○	○	
・ゴールデンエイジアアカデミー【③～】（京都アスニー、アスニー山科）		○	○	○	○	京都アスニーで毎週金曜日に開催している京都市に在住または通勤・通学されている方を対象とした無料教養講座(計49回開催)。アスニー山科で講座を同時中継している。 ・アスニー山科での参加者数:3,266人
・京都橘大学による公開セミナー、リカレント講座の実施【④～】（京都橘大学）		○	○	○	○	
・パンフレットスタンドの設置【⑤～】（青少年活動センター）		○	○	○	○	関係機関等のパンフレットを配架している。
・会議室などの施設の提供【⑥～】（青少年活動センター、東部文化会館、山科中央老人福祉センター、山科老人福祉センター、区）		○	○	○	○	
・環境、福祉、人権をはじめとする生涯学習活動の実施【⑦～】（女性会）		○	○	○	○	
・各種サークル活動などの実施【⑧～】（女性会、老人クラブ他）		○	○	○	○	
・教養講座等の実施【⑨～】（山科中央老人福祉センター、山科老人福祉センター）		○	○	○	○	教養教室、講座事業の実施。 ・実施教室、講座数:9教室、27講座
・女性リーダーズセミナー等への参加【⑩～】（女性会）		○	○	○	○	
・リーダー研修会・泊研修会への参加【⑪～】（女性会）		○	○	○	○	
・夏季女性講座の実施【⑫～】（女性会）		○	○	○	○	前期5回、後期5回実施。
・祝日・夜間開館の実施【⑬～】（山科図書館）		○	○	○	○	
・インターネットによる情報の発信【⑭～】（山科図書館）		○	○	○	○	ホームページ(自館)を充実した。
・ぼけ予防講座の実施【⑮～⑲】（老人クラブ）【⑲廃止】		○	○	○	○	
・インターネットでの貸出予約サービス開始【⑳～】（山科図書館他）		○	○	○	○	
・暮らしの工房＝三条街道わくわくホール【㉑～㉔】（市）【㉔で終了】		○	○	○	○	
・男性料理教室の開催【㉕～】（勤修学区自治連合会）		○	○	○	○	
・アスニー山科での文化祭の開催【㉖～】（アスニー山科）		○	○	○	○	平成26年10月25日、26日に第6回目となる文化祭を開催。「作品を鑑賞する。」コーナー、「発表を見る・体験する」コーナー、「アトリエ山科講師作品コーナー」、「アトリエ山科体験コーナー」などを設置。 ・参加者数:約1,000人
・学びのフォーラム山科の開催【㉗～】（アスニー山科）		○	○	○	○	毎週水曜日に歴史・文学・人生や健康など様々な分野の専門家を講師に招いた講演会を開催(計42回開催)。 ・参加者数:約10,559人
・英語図書の充実【㉘～】（山科図書館）		○	○	○	○	レベル別の英語図書を所蔵している。
・山科カレッジの開催【㉙】【㉙で終了】（区、京都橘大学）		○	○	○	○	京都橘大学との共催により、山科の歴史、文化、産業等を学び、体感していただける講座(計6回)を開催。 ・参加者数:延べ217名 ・予算額:30千円

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・区民の文化・芸術活動の拠点である、京都市東部文化会館をさらに生かしながら、「山科苑」の取組の振興と区内外への発信を図っていきます。	3.08	2.92	3.07	3.06
	・上質な文化・芸術を鑑賞できる機会の充実により、これらに積極的に親しみます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
・区民ふれあい文化祭の実施〔⑨～〕（ふれあいやましな実行委員会）		○	○	○	○
・文化芸術活動パートナーシップ事業（⑩～の京都市のフランチャイズ化事業を改組し新規実施）〔⑩～〕（東部文化会館）		○	○	○	○
・地域文化芸術活動活性化協議会による文化振興への提言の発信〔⑪～〕（東部文化会館）		○	○	○	○
・コーディネーター制度の活用〔⑫～〕（東部文化会館）		○	○	○	○
・文化芸術活動パワーアップ支援事業の普及・啓発〔⑬～〕（東部文化会館）		○	○	○	○
・アウトリーチ事業を活用した文化・芸術の振興〔⑭～〕（東部文化会館）				○	○
・山科寄席〔⑮～〕（山科図書館）					○
・創作劇の上演〔⑯～〕（NPO法人山科醒睡こどものひろば）				○	○
・アートロードなぎつじの管理・運営〔⑰～〕（区・東部文化会館）				○	○
・「ナイス・ミートin山科」の実施〔⑱～〕（市・区・東部文化会館）					○
・「伝承の地が奏でる四ノ宮琵琶」の開催〔⑲～〕（東部文化会館）					※参考 四ノ宮地域の歴史の紹介と四ノ宮琵琶の演奏の実施。 ⑳ ・予算:353千円
・【㉑新規】「山科・醍醐地域に文化芸術の力で世代間交流の場を」の開催〔㉑～〕（東部文化会館）					※参考 文化・芸術を通じた世代間交流の促進。

(4) 遊び・スポーツを楽しむする		評価	3.10	3.09	3.01	3.15
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・地域体育館における初心者向けスポーツ教室の開催や、各学区でのスポーツ同好会活動の促進をはじめ、小中学校のグラウンドの夜間開放等、気軽にスポーツを楽しめる場と機会の充実により、区民の健康づくりにも資する、スポーツの振興を図ります。	3.30	3.37	3.44	3.52	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・学区民大運動会の実施〔13～〕(各学区体育振興会)	○	○	○	○	13の小学校区を単位に開催。 ・参加者数:約25,000名
	・各種スポーツ大会の実施〔13～〕(山科区体育振興会連合会)	○	○	○	○	山科区体育振興会連合会との共催により、スポーツ大会、6種目、8大会を実施した。 ・参加者数:約1,500名
	・地域体育館における初心者向けスポーツ教室の開催〔13～〕(山科区スポーツ推進委員会)	○	○	○	○	外部講師を招き、フラダンス、ピラティス、フィットネスタイチャーの3種目について、講座を開催。 ・講座開催数:延べ21回
	・体育事業(スポーツサークル等)の実施〔13～〕(老人クラブ)	○	○	○	○	
	・スポーツ同好会による区大会の実施(卓球、バドミントン、ソフトバレーボール)〔13～〕(学区体育振興会同好会)	○	○	○	○	山科地域体育館を会場に学区を単位としたスポーツ同好会(サークル)による区大会を実施。 ・実施回数:5回
	・市民スポーツフェスティバルへのダンス出演〔13～〕(女性会)	○	○	○	○	「もっと京都」ダンスに出演。 ・出演者数:150名
	・小・中学校での夜間校庭開放事業〔13～。中学校は13～〕(市)	○	○	○	○	市内の小・中学校のグラウンドに照明設備を設置し、夜間に開放することで、誰もが身近にスポーツを行うことができる環境を整備。一層の利用促進に取り組み、更なる市民スポーツの振興を進める。 ・予算:23,142千円(全市)
	・区民歩こう会の開催〔13～〕(区、山科区体育振興会連合会)	○	○	○	○	山科区体育振興会連合会との共催により、昨年度は、東山トレイルの五条～蹴上間を多くの区民とともに歩いた。 ・参加者数:約300名
	・休日地域児童スポーツクラブの推進〔13～〕(小学校、中学校他)	○	○	○	○	
	・スポーツの絆が生きるまち推進プランの推進〔13～〕(市)	○	○	○	○	スポーツを「する」「みる」「支える」それぞれの観点から、施設整備はもとより、体育振興会、体育協会をはじめとする各団体と連携した事業の実施、誰もが気軽に来しめる場の提供、プロスポーツ振興、スポーツを支える人材の育成などの取組を着実に推進。 また、プランの進捗についての評価、助言を行うとともに、協働型事業の推進のために、年1回程度会議(京都市スポーツの絆が生きるまち推進会議)を開催。 平成27年度にはプラン(京都市市民スポーツ振興計画)の中間見直しを実施。 ・会議開催回数:1回 ・予算額:300千円(全市) ※参考 ⑫ ・予算:2,800千円
	・中学生のスポーツタイムの実施〔13～〕(山科青少年活動センター)			○	○	土・日・祝日の午後の時間にスポーツルームを開放した。 ・利用件数:227件 ・利用率:80%

50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・指導者研修等を実施し、区民のスポーツ・レクリエーションをリードする人材の養成と、各種リーダーのネットワークの充実を図ります。	2.90	2.82	2.58	2.79	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・女性教育指導者研修〔13～〕(女性会、市)	○	○	○	○	市内の女性団体指導者を対象に、今日の地域活動に必要な知識と技術の習得を図り、各地域における女性の主体的な活動を推進するための研修会を開催。 ・参加者数:33名(全市) ・予算:221千円(全市)
	・青少年の地域活動事業の実施〔13～20〕(山科青少年活動センター)〔20で終了〕	○	○			

基本施策3：交通・都市基盤を強化する　・ ・ ・ ・ ・		評価	2.76	2.60	2.52	2.66
(1) 道路を快適にする　・ ・ ・ ・ ・		評価	2.73	2.59	2.52	2.56
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・阪神高速8号京都線の完成や第二京阪道路の供用開始に伴う交通量の増加予測も踏まえて、幹線道路の慢性的な交通渋滞の緩和、生活道路への通過交通の流入対策、また、緊急輸送道路等の確保を図ります。	2.75	2.62	2.48	2.55	
	・国道1号の交通渋滞を緩和するため、阪神高速8号京都線「稲荷山トンネル」の利用促進を図ります。					
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・「稲荷山トンネル」の利用促進策【⑩～】(山)		○	○	○	○	周辺道路の渋滞緩和のため、阪神高速8号京都線「稲荷山トンネル」の利用推進を図る取組みを実施。平成26年度の取組として、阪神高速8号線の利用を促す内容の横断幕を歩道橋に設置、利用促進チラシを各区役所や地下鉄各駅等に配布。 ・予算:1,000千円
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・「歩くまち・京都」総合交通戦略」や「改訂京都市自転車総合計画」を踏まえて、歩行者や自転車利用のひとが安心して気持ちよく利用できる道路空間づくりと沿道アメニティの向上を図ります。	2.51	2.36	2.28	2.33	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・「歩くまち・京都」総合交通戦略の推進【⑩～】(山)		○	○	○	○	人と公共交通交通優先の「歩くまち・京都」を実現するために、「歩くまち・京都」総合交通戦略に掲げる88の実施プロジェクトを着実に推進。 ・予算:6,944千円(全市)
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・水辺の空間を軸とした、山科の歴史・文化資源等をつなぐ歩行者ネットワークの充実を図ります。	2.64	2.42	2.32	2.42	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・音羽川を花で飾る活動【⑩～】(音羽川学区自治連合会)		○	○	○	○	河川の堤防沿いの花壇の花植え等の管理を行っている。
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・違法駐車、放置自転車対策のための啓発やパトロール等を行うとともに、交通安全施設の整備促進、交通安全と自転車マナーの教室等の地域ぐるみの交通安全対策の充実を図ります。	3.02	2.95	3.00	2.94	
		実施又は未実施				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
		23年度	24年度	25年度	26年度	
・放置自動車のパトロール【⑩～】(東部土木)		○	○	○	○	毎月2回、安楽安全安心推進委員会と協働で、山科駅付近にて路上放置防止の啓発活動を実施。
・小学校交通安全連絡会【⑩～】(各学区交対協、小学校、PTA、山科警察)		○	○	○	○	児童交通安全対策協議会として実施。(大塚、鏡山、古々、山階、音羽川、山階南学区で実施)
・山階南学区地域交通安全パレードの実施【⑩～】(山階南学区交対協)		○	○	○	○	
・児童自転車教室【⑩～】(各学区交対協、山科警察他)		○	○	○	○	・親子児童教室:安楽、百々学区で各1回
・高齢者に対する交通安全教室【⑩～】(各学区交対協、各学区社協他)		○	○	○	○	・子ども自転車大会向け教室:山階南学区で13回実施
・高齢者交通事故防止モデル地区の設定【⑩～⑫】(山科警察、学区交対協他)		○	△	△	△	
・放置自転車防止啓発活動の取組【⑩～】(市、東部土木、区、区民、鉄道事業者他)		○	○	○	○	JR山科駅にて、警告シールを貼付するなどの啓発活動を行っている
・小学生の自転車教室【⑩～】(各学区交対協)		○	○	○	○	
・全川交通安全啓発活動【⑩～】(交対協、区、山科警察、東部土木)		○	○	○	○	
・市域一斉交通事故防止街頭啓発活動日【⑩～】(市、交対協)		○	○	○	○	各学区の交通安全対策協議会を主体に、春、夏、秋、年末に実施される全国交通安全運動期間の初日を基準に、街頭啓発活動を実施。
・放置自転車の撤去の実施【⑩～】(市)		○	○	○	○	自転車等の即時撤去を実施。 ・撤去台数: 御陵駅37台、山科駅863台、東野駅13台、柳辻駅130台、小野駅24台
・パーク・アンド・ライドの実施【⑩～】(市)		○	○	○	○	市内中心部及び観光地周辺への自動車流入抑制と公共交通の利用促進を図るため、広域的なパークアンドライドを実施する。 ・利用可能台数:6,394台(全市) ※参考 ⑫ 利用可能台数:4762台(全市) ⑪ 利用可能台数:5684台(全市) ⑬ 利用可能台数:5,939台(全市)
・交通事故の衝撃の体験活動の実施(シートベルト着用の啓発)【⑩～】(山科地域交通安全活動推進委員協議会)		○	○	○	○	山科区交通安全対策協議会との共催により、JR山科駅前及び二条外環状線の交差点において実施。 ・実施回数:4回
・小学生に対する自転車運転免許事業の推進・強化【⑩～】(山科警察)		△	○	○	○	・区内における実施校数:11校
・高校、大学を対象とした交通安全の働きかけ【⑩～】(山科警察)		△	○	○	○	洛東高校新入生向けの自転車教室、京都橋大学新入生に対する自転車、バイク教室を実施。
・区役所と連携した交通安全対策の推進【⑩～】(山科警察)		△	○	○	○	府域一斉街頭啓発日において街頭啓発活動を実施(年4回)。

(2) 交通環境を便利にする		評価	2.55	2.44	2.38	2.52
50の取組	・「山科区交通問題研究会」における取組を受け、区内公共交通ネットワークの充実に向けたコミュニティバスの導入検討等、区の交通問題を解決するための対策を検討していきます。 ・環境負荷が小さく効率的な移動手段である地下鉄の積極的な利用に努めつつ、公共交通ネットワーク全体の充実を図っていきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		2.73	2.64	2.59	2.72	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・山科循環線「くるり山科」の運行【13～】（京阪バス）		○	○	○	○	全曜日・9～17時台の時間帯に40分間隔で小型バスを循環(山科駅～総合庁舎～広見町～今尾駅～山科駅)運行。運賃：一乗車大人210円、小児110円。
・鏡山循環系統バス実証運行【20～】（京阪バス）			○	○	○	鏡山学区の要望を受け平成25年3月23日から実証運行を開始。 本格運行を目指し鏡山学区と区役所が連携して「地域と連携したMM事業」を実施した結果、1便約20人の利用者数に到し、平成27年3月23日から本格運行が開始。
・山科区公共交通利用促進協議会での検討【20～】（区、都市計画局、交通局、京阪バス）		○	○	○	○	交通事業者と連携を図り山科区の公共交通利用促進や交通問題改善に向けた取組を推進(予算措置なし)。 ・開催回数：2回(第8回(平成26年9月9日)、第9回(平成26年12月11日)) バス、鉄道の路線図や時刻表の情報を一つのマップとして配布し公共交通の利用促進を図る。 ・山科御陵駅、東野駅マップ発行部数：各1000部 ・柳辻駅、小野駅マップ発行部数：各500部 ・予算：440千円
・山科区地下鉄駅周辺おでかけマップの作成		○	○	○	○	

50の取組	・都市部・観光地への自動車流入の抑制と環境負荷の低減のため、パークアンドライド／サイクルライドの普及と地下鉄等の公共交通機関の利用を促進します。 ・区民・観光客等がレンタサイクルを気軽に利用できるよう、必要な環境・サービスの充実に向けた取組の支援を行い、 レンタサイクル利用の普及を図ります。	評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		2.37	2.24	2.17	2.31
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
改訂京都市自転車総合計画の推進【20～26】（市）【26で終了（新計画に引継ぎ）】		○	○	○	○
・【20新規】京都・新自転車計画の推進【20～】（市）					
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		「改訂京都市自転車総合計画」に基づき、放置自転車等対策に取り組んできたところであるが、27年度からは新たに策定した「京都・新自転車計画」に基づき「みえる化」をキーワードに、総合的な自転車政策を推進する。 山科区内でも、「ルール・マナーの『みえる化』」施策として自転車のルール・マナーについて知る機会の提供、「自転車駐輪環境の『みえる化』」施策として電動アシスト付自転車用バッテリーの充電サービス等市営駐輪場のサービス向上等の施策の実施を予定している。			

(3) 都市環境を充実させる			評価	2.94	2.71	2.62	2.88	
50の取組				評価				
				23年度	24年度	25年度	26年度	
	・地震や風水害、火災等の災害時に強い都市構造とするため、河川・排水路の整備・改修等の必要な治水対策を行うとともに、防災情報を提供できるよう、通信体制を整備します。また、建築物等の耐震化や狭小宅地の改善の促進、市街地内のオープンスペース(空地)の確保等を図っていきます。			2.88	2.63	2.43	3.03	
	・「山科区防災活動計画」に基づいて、災害時のライフライン確保に向けて取り組みます。							
				実施又は未実施				
				23年度	24年度	25年度	26年度	
				平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)				
・山科区総合防災訓練の実施〔⑬～〕(市、区他)				○	○	○	○	区民が主体となり、避難所運営及び組織的な災害対応に重点を置いた実践的な訓練を行う。平成26年度は、10月26日に西野小学校で実施した。 ・参加者数:約500名
・旧安祥寺川河川改修〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	川安祥寺川では都市化の進展等に伴い、保水・遊水機能の低下による雨水流出量の増大に對して、浸水被害を防ぐための改修事業を行っている。平成26年度は、平成25年度に引き続きJR西日本の委託工事で事業の進捗を図り、第一期工事が完了した。 ・予算:660,000千円
・西野山川河川改修〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	西野山川では都市化の進展等に伴い低地の浸水等が発生しているため、改修事業を実施している。平成26年度は、平成25年度に引き続き地権者協議等を行った。
・竹田川河川改良事業〔⑬～〕(市)				○	○		○	・事業延長:540m ・全体事業費(⑬まで):1,588,000千円
・農業用水路・ゲートの改修〔⑬～〕(東部農業振興センター)				○	○	○	○	農業団体が行う農業用水路・ゲート等の改善工事に対する助成を実施。 ・農業用水路改修:3箇所 ・農業用パイプライン更新1箇所
・下水道雨水排水施設の整備〔⑬～〕(上下水道局みなみ下水道管理管路センター)				○	○	○	○	雨水管、側溝の新設、改造工事による雨水排水施設の増強。 ・予算:16,300千円 ※参考 ⑬ 予算:22,154千円 ⑭ 予算:20,930千円 ⑮ 予算:16,300千円
・老朽化した施設改修のための疏水路改修工事〔⑬～〕(市)〔⑭で終了〕				○	○			
・京都市農林行政基本方針の推進〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	基本方針に掲げる施策を実施。 ・ふれあい体験農場の実施(再掲):1箇所 ・生産基盤の整備助成(水路・ゲート改修等)(再掲):4箇所 ・市民農園開設助成:1箇所 ・有宮鳥獣防除施設設置事業:1箇所
・木造住宅耐震診断士派遣事業及び京町家耐震診断士派遣事業〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	京都市の登録耐震診断士を派遣し、耐震診断を実施。 ・数値目標 木造住宅(250件)(全市) 京町家(150件)(全市) ・実施件数 木造住宅(138件)(全市) 京町家(105件)(全市)
・耐震建て替え融資制度〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	市内の金融機関に必要な資金を本市から預託し、市民が行う住宅のリフォームや耐震改修などへの低金利の融資を促進し、市民の住生活の向上を図ることを目的とする「京都市あんげん住宅改善資金融資制度」のうちのひとつ。 ・予算:578,583千円 ・実績(融資額):539,662千円 ※予算、実績とも下記、木造住宅耐震改修融資制度との合算の金額。
・山科区地域防災計画におけるライフライン施設災害予防及び応急対策計画、各機関の防災計画等に基づく取組の推進、連絡体制の強化〔⑬～〕(各機関)				○	○	○	○	情報を共有し、相互の信頼関係に基づいて協働することにより、災害に強い安全・安心なまちづくりを推進する。
・山科消防署、消防団、自主防災組織等の連絡体制の強化〔⑬～〕(各機関)				○	○	○	○	平成26年度から山科区防災会議の幹事会を毎月開催し、きめ細やかな情報共有に努めている。
・京都市防災水利構想の推進〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	地震等の大規模災害時に必要とされる消火用水、飲料水、生活用水及び医療用水を確保するため、あらゆる水利を対象とし、本市の地域特性に応じた水利整備を推進する。
・木造住宅耐震改修融資制度〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	市内の金融機関に必要な資金を本市から預託し、市民が行う住宅のリフォームや耐震改修などへの低金利の融資を促進し、市民の住生活の向上を図ることを目的とする「京都市あんげん住宅改善資金融資制度」のうちのひとつ。 ・予算:578,583千円 ・実績(融資額):539,662千円 ※予算、実績とも下記、木耐震建て替え融資制度との合算の金額。
・木造住宅耐震改修助成事業及び京町家等耐震改修助成事業〔⑬～〕(市)				○	○	○	○	耐震改修工事に要する費用の2分の1を補助する。(木造住宅:上限60万、京町家:上限90万円)※ 密集市街地や細街路において、併せて防火改修工事を行う場合、補助額最大30万円を上乗せ。 ・目標補助件数 木造住宅:70件 京町家:30件 ・補助実績 木造住宅:24件 京町家:2件
・木造住宅耐震改修計画作成助成事業〔⑭～〕(市)					○	○	○	耐震改修の計画作成、設計、工事費見積り等に要する費用の90%(上限15万円)を補助する。 ・目標補助件数:100件 ・補助実績:44件
・まちの匠の知恵を活かした京都型耐震リフォーム支援事業〔⑭～〕(市)					○	○	○	耐震性が確実に向上する様々な工事を補助対象としてあらかじめメニュー化。メニューに該当する耐震改修工事に要する費用の90%(上限60万円)を補助する。 ・目標補助件数:900件 ・補助実績:535件
・雨水貯留施設設置助成制度〔⑭～〕(市)				○	○	○	○	雨水を一時的に貯留し有効活用ができる「雨水貯留施設」の普及のための制度。 ・予算:3,000千円
・雨水浸透ます設置助成金制度〔⑭～〕(市)				○	○	○	○	雨水を地中に浸透させ市街地への雨水の流出を抑制する効果がある「雨水浸透ます」の普及のための制度 ・予算:1,000千円
・山科三条雨水幹線の整備〔⑭～〕(市)					○	○	○	10年に一度の大雨に対する安全度を高めるため、山科駅周辺において雨水幹線(11径φ1,500mm、延長1=2,260m)の整備を進める。 ・概算事業費:約25億円

50の取組		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・「京都市都市計画マスタープラン」に基づき、山科駅周辺地区において、都市拠点としての充実を図っていきます。				
	・御陵、東野、柳辻、小野、四ノ宮地区等、鉄道駅を中心としたそれぞれの地区において、商店街の活性化に努め、特色ある生活拠点の形成をさらに進めていきます。	2.88	2.65	2.50	2.79
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・山科商店振興会の取組の推進〔14～〕（山科商店振興会、山科経済同友会他）		○	○	○	○
・京都市都市計画マスタープランの推進〔14～〕（市）		○	○	○	○
・駅前周辺イベント「手づくり市」、「スタンプラリー」、「フリーマーケット」の実施〔14～〕（山科商店振興会）		○	○	○	○
・地下鉄山科駅賑わい創出事業〔14～〕（市）				○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		地下鉄山科駅構内に駅ナカビジネスを展開し、山科駅の特性に応じた商業利用を促進して、利便性が高く、賑わいのある空間を積極的に創出する。平成26年10月10日にはモトチカ山科が開業した。			

50の取組		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・自然景観・歴史的景観の保全、また、都市景観の創出を図り、これらを山科の魅力・観光を育てるなかに生かしていきます。				
	・「京都市屋外広告物等に関する条例」に基づいて、広告物の規制・指導を行うとともに、啓発活動等、地域ぐるみの取組展開を図っていきます。	3.05	2.86	2.93	2.83
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・広告物の規制指導の実施〔13～〕（市）		○	○	○	○
・山科区2万人まち美化作戦における違反広告物の撤去〔13～〕（自治連合会、各種団体、関係行政機関、関係事業所）		○	○	○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		景観支障の大きな違反広告物から優先的に是正指導を行うことにより、広告景観の更なる向上に取り組む。			
		山科区2万人まち美化作戦(平成26年6月1日)の取組に合わせて行っている。			

基本施策4：保健・福祉・子育て支援を充実させる・・

(1) 子どもと子育てを応援する・・・・・

		評価	3.13	3.05	2.97	3.11
		評価	3.17	3.10	3.05	3.11
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・乳幼児の健やかな発育・発達を守り、子育て中の育児不安を軽減するため、乳幼児健診をはじめ、訪問・相談事業等を充実させます。	3.23	3.03	3.04	3.11	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・親子の健康づくり推進事業の実施【⑬～】(区)		○	○	○	○	出産や育児の経験がある育児期の方と、妊娠期の方との交流により、妊娠期から育児期における親の負担を軽減し、子どもを安心して生み育てる環境づくりを推進するため実施(プレママ・パパ事業)。概ね月1回実施。
・訪問相談指導、乳幼児健康診査の実施・促進【⑬～】(区)		○	○	○	○	区内に居住する4か月児・8か月児・1歳6か月児・3歳児に対して健康診査、保健指導を行っている。また、訪問指導については、年1回保健師が家庭訪問等を通じて医療についての助言指導を行っている。
・「京都市未来子どもプラン」の推進【⑫～⑭】【⑮で終了(新計画に引き継ぎ)】(市)		○	○	○	○	子育て支援施策の総合的な計画として平成22年3月に策定した「京都市未来子どもプラン」に掲載の事業を推進。
・【⑫新規】「京都市未来子どもはぐくみプラン」の推進【⑫～】(市)						「京都市未来子どもプラン」(～平成26年度)の後継計画として位置付け、本市の子育て支援施策に関する総合的な計画として策定した「京都市未来子どもはぐくみプラン」の推進。

		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
50の取組		3.17	3.16	3.07	3.18	
	・幼児期に必要な「学び」を助長する幼児教育について、子ども一人一人の個性尊重を基本として、その充実を図ります。					
	・子どもに必要な保育を適切に整え、また、子どもを養育する保護者をサポートするため、多様な保育サービスの確保などに努めます。					
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・保育園の整備【⑬～】(市)		○	○	○	○	なかとみ保育園老朽改築(定員5人増)を実施。 ・予算:88,400千円
・延長保育の実施【⑬～】(市、保育所(園))		○	○	○	○	11時間を超えて保育を行う延長保育を実施。
・保育時間外預り保育の実施【⑬～】(市、幼稚園)		○	○	○	○	・実施箇所:区内17箇所 幼稚園預かり保育の実施。
・一時保育の実施【⑬～】(市、保育所(園))		○	○	○	○	・実施箇所:区内10箇所 幼稚園預かり保育の実施。
・休日保育の実施【⑬～】(市、保育所(園))		○	○	○	○	・実施箇所:区内3箇所 多様な保育ニーズに対応する一時保育を実施
・保育所及び保育園里親入所決定や相談などの実施【⑬～】(区)		○	○	○	○	全市一斉に前年11月1日から申請を受け付け、1月7日から9日の間に面接を行い、4月入園の選考を行っている。また、5月以降の入園についても受け入れが可能な施設について随時選考を行っている。
・夜間保育の実施【⑬～】(市、保育所(園))		○	○	○	○	休日に開所する休日保育を実施。
・幼稚園児の描いた絵の展示【⑬～】(山科図書館、幼稚園)		○	○	○	○	・実施箇所:区内1箇所

50の取組		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
	・児童館・学童クラブによる、昼間留守家庭児童への対応を進めることとあわせて、「放課後まなび教室」の取組と連携・協働し、放課後児童対策の一層の充実を図っていきます。	3.18	3.20	3.11	3.31
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
	・児童館の運営【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・全児童館での学童クラブ事業の実施【⑬～】(児童館, 市)	○	○	○	○
	・学童クラブ事業の実施時間の拡大【⑬～】(児童館, 市)	○	○	○	○
	・学童クラブにおける障害のある児童登録対象の拡大【⑬～】(児童館, 市)	○	○	○	○
	・小学校敷地を活用して整備した児童館における、放課後まなび教室登録児童の自由来館直接利用【⑬～】(児童館, 市)	○	○	○	○

50の取組		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
	・「行政区レベル」の支援拠点である「子ども支援センター」において、子育てに関する総合相談・情報発信、区域内の関係機関のネットワークの強化を図っていきます。 ・「身近な地域レベル」の支援拠点として、保育所や児童館を「地域子育て支援ステーション」に指定しており、子育て相談や講座、地域交流事業をはじめとする各種事業の一層の展開を図っていきます。 ・「京都市子育て支援活動いきいきセンター(つどいの広場)」において、主に乳幼児とその親が、気軽につどい、交流できるような事業の充実を図るとともに、育児相談等を行う場を提供していきます。 ・「京都市山科区要保護児童対策地域協議会」の取組を強めて、関係機関・地域・家庭の連携のもとで、児童虐待の防止と早期発見・早期対応に努めます。 ・家庭・地域・学校等の幅広い連携のもとで、すべての「山科の子ども」の健全育成・発達支援に努めます。 ・親自身の生活課題に寄り添い、就労や日常生活の支援を通じて自立を促進し、生活の安定と向上に結び付けることによって、ひとり親家庭等の子どもの健全な成長を応援していきます。	3.30	3.10	3.11	3.10
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
	・子育て講演会の開催【⑬～】(山科子育て応援団, 区社会福祉協議会)	○	○	○	○
	・山科子育て応援団への支援【⑬～】(区社会福祉協議会)	○	○	○	○
	・地域子育て支援ステーションの設置・運営【⑬～】(児童館・保育所(国)及び認定こども園)	○	○	○	○
	・地域子育て相談事業の実施【⑬～】(市, 幼稚園)	○	○	○	○
	・子育て支援短期利用事業の実施【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・利用決定や相談などの実施【⑬～】(区)	○	○	○	○
	・ファミリーサポート事業【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・「子ども支援センター」ホームページの運営【⑬～】(区)	○	○	○	○
	・育児支援家庭訪問事業【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・様々な子育て支援【⑬～】(女性会)	○	○	○	○
	・「やましな子育て支援連絡会」に新部会「発達支援部会」を設置【⑬～】(区)	○	○	○	○
	・「要保護児童対策地域協議会」及び「地域包括支援センター」の運営【⑬～】	○	○	○	○
	・「子ども生活支援センター」の開設・運営【⑬～】(NPO山科親子こどものひろば)	○	○	○	○
	・よんでよんで赤ちゃんの会(赤ちゃんの読み聞かせ)【⑬～】(山科図書館)	○	○	○	○
	・親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・携帯電話市民インストラクターによる啓発講座【⑬～】(市)	○	○	○	○
	・中学生による小学生への読み聞かせ支援【⑬～】(山科図書館)	○	○	○	○

50の取組	・学校教育における体験型の学習活動の充実等により、「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の調和のとれた育成を図り、子どもの「生きる力」を育んでいきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.06	3.10	3.08	3.20	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)				
・学校だよりの地域回覧・掲示【13～】（市）		○	○	○	○	開かれた学校づくりの一環として、学校だよりを地域回覧及び掲示している。（区内全校で実施）
・学校ホームページの運営【13～】（市）		○	○	○	○	「ホームページ作成支援システム(CMS)」を導入し、全ての市民にとって使いやすく、常に新しい情報が掲載されたホームページ発信を行っている。 ・予算8,416千円(全市) ※参考 ⑭ ・予算4,409千円(全市)
・学校評議員制度の導入【13～】（市）		○	○	○	○	保護者・地域住民からの意見を学校運営や教育活動に活かし、学校支援の輪を拡大することで学校の活性化に繋げるため、全校・園で設置(ただし、現在では学校運営協議会の発足に伴い、機能を一本化している学校もある)。
・学校支援ボランティアの活用【13～】（市）		○	○	○	○	学校における体験学習の支援を行うボランティアの活動を援助するほか、居住地域を超えて他校でも活動していただけるよう、ネットワーク化を推進。 ・活動参加者数(山科区のみ):36名
・小・中学校の児童等への指導：クラブ活動、伝承遊び、民謡など【13～】（女性会）		○	○	○	○	学習の一つとして、「山科音頭」の伝承活動を実施。
・中学生の職場体験活動「生き方探究・チャレンジ体験」の実施【13～】（市）		○	○	○	○	京都市立中学校の生徒が校区を中心とする地域の事業者の協力を得て、それぞれの興味・関心に応じた多彩な職場体験や勤労体験を実施。 ・参加生徒数:10,236名(全市) ・受入事業所:約3,700箇所(全市)
・東総合支援学校の生徒によるワーク製品の販売会【13～】（東総合支援学校）		○	○	○	○	
・お楽しみ会の実施【13～】（山科図書館）		○	○	○	○	平成26年度は、平成25年度より、開催回数を増やし実施した。 ・開催回数:毎月3回
・小学生による社会見学【13～】（山科図書館、小学校）		○	○	○	○	
・大学との連携による学生ボランティア学校サポート事業【13～】（学校、大学、他）		○	○	○	○	教職を目指す学生等のクラブ活動の指導補助など各学校・幼稚園において必要とされる教育活動の支援。 ・参加者数:1,879名(全市) ・実施回数:24,778回(全市) ・予算:30,187千円(全市)
・「おやじの会」によるふれあい活動等の推進【13～：区内11小学校】（おやじの会）		○	○	○	○	学校・幼稚園単位での父親によるサークル活動を奨励し、父親の子育て参加と地域のボランティア活動を展開。 ・実施校・園数:153校・園(全市) ・予算:7,049千円(全市) ※参考 ⑭ ・予算:6,789千円(全市)
・「みやこ子ども土曜塾」の実施【13～】（みやこ子ども土曜塾他）		○	○	○	○	土曜日・日祝日、夏休み等の学校休業日において、市民ぐるみで京都ならではの多様な学習資源を生かした豊かな学びと育ちの場を子どもたちに提供する。 ・参加人数:192,000人(全市) ・予算:21,902千円 ※参考 ⑭ ・予算:21,090千円(全市)
・学校運営協議会（コミュニティ・スクール）の設置【13～】（小学校、PTA、市、他）		○	○	○	○	保護者・地域からの意見を反映するだけでなく、具体的な学校支援の取組を学校・家庭・地域の協働体制として行える仕組み(学校の「御意見番」かつ「応援団」としての役割)として設置を拡大している。
・京都市子ども読書活動推進計画の推進【13～】（市）		○	○	○	○	木が大好きな子どもを社会全体で育てることをめざした「京都市子どもの読書活動推進計画」に基づき、家庭・地域・学校が連携して子どもの読書習慣の定着を図る。 ・1年間に100冊以上本を読んだ子どもの人数:27,992人(全市) ・予算:2,610千円(全市) ※参考 ⑭ ・予算2,531千円
・学校図書ナビゲーションシステム（こども図書ナビ）の導入【13～】（市）		○	○	○	○	学校図書館の蔵書データ及び貸出・返却を管理するシステムを導入し、貸出上位等の統計データが検出ができ、読書志向を把握した学習指導への活用が可能となった。
・目指せ100冊読書マラソン【13～】（小学校、図書館）		○	○	○	○	学校貸出の増に努めた。
・小学校での「こころの授業」の実施【13～】（青羽川小学校）		○	○	○	○	
・ホテルの飛ぶ池ビオトープの整備【13～】（鏡山小学校、PTA、鏡山自治連合会）		○	○	○	○	地域住民と、蜷の生息できる環境を整備している。整備後の6月には、毎年、地域の方を招き、鑑賞会を開催。
・【20新規】インターネット等問題に関わる啓発プログラムの作成【13～】（市）						※参考 子どもの間で生じている、インターネット利用に起因する様々な問題を予防・解決するため、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、子どもが主体的に課題を共有して自ら解決策を探るとともに、保護者の課題意識の向上にもつながるプログラム(授業モデル)を策定する。
・洛東高等学校花山天文台観測実習【13～】（京都大学花山天文台、洛東高等学校）		○	○	○	○	太陽館シロスタット、分光器を利用した分光観測、ザートリウス望遠鏡を利用した太陽Hα画像の観測と観測したデータの解析を実施した。（平成26年8月18日～21日実施） ・予算:115千円 ・参加者:4名 ・成果:日本天文学会ジュニアセッション、日本地球惑星科学連合高校生セッションにて研究発表を行った。 ・研究発表: 日本惑星科学連合高校生セッション、佳作、京都読売賞受賞
・京都市立小学校体験学習【13～】（京都大学花山天文台、市）				○	○	京都大学と京都市教育委員会の連携の一環として、京都市立小学校の児童を対象とした花山天文台での体験学習を行った。 ・参加者数:11校525名(全市) ・予算:800千円 ※参考 ⑭ ・参加者数:9校595名(全市) ・予算:800千円 ⑭ ・参加予定校数:10校(全市) ・予算:800千円
・京都市立小学校校長会山科支部研修会【13～】（京都大学花山天文台、京都市立小学校校長会山科支部）					○	山科区内小学校と花山天文台との交流を図り、今後の教育連携について協議。（平成26年12月24日実施。） ・参加者数:15名

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・山科のまちをともに考え、ともに良くするために、青少年の気軽な交流等の場と機会を提供する「山科青少年活動センター」の活動をさらに促進し、「若者が発信する21世紀の山科のまちづくり」等の社会参加を促進させる事業を展開していきます。	3.10	3.03	2.88	2.78
	・京都の青少年の非行等は、全国と比較して多い現状となっています。山科区においても、こうした実態をかんがみ、家庭・学校のほか、警察等の関係機関と連携し、地域ぐるみで非行の防止に努めていきます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
・地域生徒指導連絡協議会の機能強化〔13～〕（市）		○	○	○	○
・若者が発信する21世紀の山科まちづくり〔16～29〕（青少年活動センター） 〔29廃止（少年非行を考える地域サポート研究会（若者の今を考えるサロン）に移行）		○	○	○	
・「子どもの文化フォーラム」の開催〔10～28〕〔28終了〕（東部文化会館他）		○	○	○	○
・銀河隊パトロール〔29～〕（山科少年指導委員会、山科警察）		○	○	○	○
・少年非行を考える地域サポート研究会の開催〔29～〕（山科青少年活動センター）				○	○
		中学校区を単位として、地域パトロールやクリーン活動など、子ども達の健全な育成と地域連携を進める。 ・予算:7,220千円(全市) ・研修会参加者数:350名(全市) ※参考 ② ・予算額:6,642千円(全市)			
		月に1度、学区内のコンビニや公園などを見回り、子どもたちに話しかけ、帰宅を促す活動を実施。			
		「若者の今を考えるサロン」として実施。3回の開催で、非行理解を図った。 ・参加者数:101名			

(2) 障がいのあるひとの社会生活を応援する

(2) 障がいのあるひとの社会生活を応援する		評価		3.07	3.05	2.96	3.07
50の取組	・生活の場の確保や外出・コミュニケーション支援等、障がいのあるひととその家族が適切に障がい福祉サービスを利用できるよう体制の整備を図ります。	評価					
		23年度	24年度	25年度	26年度		
		3.09	3.08	2.96	3.10		
	・生活全般から、福祉・保健・医療サービスの情報提供や利用援助に関してまで、多様な相談にこたえる体制を充実させていきます。						
		実施又は未実施					
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)	
・精神保健福祉懇談会の開催〔③～〕（山科こころの健康を考える会他）		○	○	○	○	平成27年1月14日(水)、アスニー山科において講演会とシンポジウムを実施した。講演会には精神保健福祉行政の動向をテーマに行い、シンポジウムについては、「病院から地域社会」をテーマに実施した。 ・参加者数:105名	
・障害福祉サービスや地域生活支援事業等の実施〔⑩～〕（市他）		○	○	○	○	障害福祉サービスにおいて、生活介護、就労継続支援A型、就労継続支援B型、放課後等デイサービスを実施。	
・区役所における相談・情報提供の実施〔⑬～〕（区）		○	○	○	○	窓口や電話の相談、必要時訪問等を実施。	
・関係団体による相談・情報提供の実施〔⑬～〕（身体障害者司体連合会、Fをつなぐ育成会、他）		○	○	○	○	障がいのある一般の人や会員からの相談を受けたり、会員に情報を届けたりした。	
・知的障害者グループホーム：区内2箇所〔⑬～〕（市他）		○	○	○	○	共同生活の仕居において、食事・排泄・入浴の介護、相談や日常生活上の援助を実施。	
・精神障害者グループホーム：区内3箇所〔⑬～〕（市他）		○	○	○	○	共同生活の仕居において、食事・排泄・入浴の介護、相談や日常生活上の援助を実施。	
・入所決定や相談等の実施〔⑬～〕（区）		○	○	○	○	入所申込の相談と入所決定後の支給決定を施行する。	
・地域福祉推進委員会の活動運営〔⑬～〕（区、区社会福祉協議会）		○	○	○	○	山科区内の幅広い福祉関係者のネットワーク。委員会2回。作業部会2回。シンポジウム「山科区の地域福祉を考える集い」は居場所をテーマに開催。誰でも気軽に立ち寄れる居場所「フリースペース」の設置を推進。6か所で開設。	
・障害者地域生活支援センターの設置：区内計2箇所（うち、1箇所は基幹相談支援センター）〔⑬～〕（市他）		○	○	○	○	身体障害、知的障害、精神障害及び難病等に対応した障害者地域生活支援センターを設置することにより、障害福祉サービス等の利用援助等を行い、障害者総合支援法の円滑な実施を図る。また、基幹相談支援機能を付加したセンター（基幹相談支援センター）においては、各相談支援事業所へのバックアップや権利擁護の取組等を行う。	
・山科区障害者福祉サービス実務者会議の実施〔⑬～〕（区、区社会福祉協議会他）		○	○	○	○	区社協、らくとう支援センター、東総合支援学校、やましの里、支援課で構成し、年に4回程度不定期に開催。	
・日常生活自立支援事業（地域福祉権利擁護事業）の実施〔⑬～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	判断能力に不安のある方の金銭管理や福祉サービスの利用を支援。 ・利用者数:58名 ・生活支援員(利用者を支援):39名	
・精神障害者地域移行・地域定着事業〔⑬～〕（市）		○	○	○	○	精神障害者が住み慣れた地域を拠点とし、本人の意向に即して充実した生活を送ることができるよう、関係機関の連携のもとで地域生活への移行に向けた支援並びに地域生活を継続するための支援を推進することを目的とする。 ・予算:3,587千円（委託金） ・地域移行・地域定着支援実務者会議開催回数:12回(この他、研修会を開催) ※参考 ⑭ ・予算:3,587千円（委託金）	
・東部障害者地域生活支援センター「らくとう」における手話サポートシステム、点訳システムの設置〔⑬～⑮〕（市）〔⑮で終了〕		○					
・障害者総合支援法に基づくサービスの利用決定・相談などの実施〔⑬～〕（区）		○	○	○	○	サービスの相談と支給決定業務を行う。	
・ごみ収集福祉サービス〔⑬～〕（市）		○	○	○	○	ごみ出しが困難な方への生活支援として、自宅の玄関先までごみの回収に伺う。また、ごみが排出されていない場合は、登録された連絡先へ電話するなど、安否確認を行う。	
・住宅用火災警報器取付事業〔⑬～⑮〕（市）〔⑮で終了〕		○					
・東部障害者地域自立支援協議会活動の運営〔⑬～〕（区）		○	○	○	○	毎月の運営会議と、触法部会・児童部会への参画。	
・「支えあうまち・京（みやこ）のほほえみプラン（京都市障害保健福祉推進計画）」の推進〔⑬～⑮〕（市）〔⑮で終了〕							
・「支えあうまち・京都ほほえみプラン（京都市障害者施策推進計画）」の推進〔⑬～〕（市）				○	○	障害のある人もない人も、すべての人が違いを認め合い、支えあうまちづくりを推進するため、本プランに基づき施策を実施していく。	
・京都市重度障害者入院時コミュニケーション支援員派遣事業の実施〔⑬～〕（市）		○	○	○	○	在宅生活の重度障害のある方について、入院時の医療スタッフとのコミュニケーション支援に関して、支援員を派遣することで、地域移行、地域生活の支援体制の充実を図る。	
・京都市重度障害者緊急時介護人派遣事業の実施〔⑬～〕（市）		○	○	○	○	在宅生活の重度障害のある方について、他のサービスや家族では対応できない在宅介護に関して、介護人を派遣することで、地域移行、地域生活の支援体制の充実を図る。	
・障がいのある若者の性教育講座〔⑮～〕（山科青少年活動センター）				○	○	計3回実施し、参加者の満足度が高かった。 ・参加者数:111名	

50の取組		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
	・移動支援をはじめとした外出時に支援するサービスの充実等により、障がいのあるひとの自己実現を応援し、地域のさまざまなひとや企業との連携のなかで、就労や学習、レクリエーション等、多様な活動の機会をだれもが得られるようにしていきます。	3.05	3.03	2.96	3.03
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
					平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
	・山科こころのふれあい夏まつり【⑬～】(山科こころの健康を考える会、他)	○	○	○	○
	・サポートボランティア入門講座【⑬～】(山科こころの健康を考える会)	○	○	○	○
	・社会参加訓練旅行の実施【⑬～】(身体障害者団体連合会)	○	○	○	○
	・体育大会やまつりなど各種事業への参加【⑬～】(身体障害者団体連合会、手をつなぐ育成会)	○	○	○	○
	・おいおい広場(東総合支援学校)への参加及び支援【⑬～⑳】(小学校PTA、中学校PTA、他)【㉑で終了】	○			
	・防災研修会の開催【⑬～】(手をつなぐ育成会、山科消防署)	○	○	○	○
	・施設の入所決定や相談等の実施【⑬～】(区)	○	○	○	○
	・共同作業所への助成【⑬～】(区社会福祉協議会)	○	○	○	○
	・情報閲覧用のパソコンの設置【⑬～】(区社会福祉協議会)	○	○	○	○
	・障害児の長期休み支援事業(あそびの広場)の実施【⑬～】(やましな子育て支援連絡会、区社会福祉協議会)	○	○	○	○
					精神障害者と一般市民との交流を図ることを目的として、平成26年8月11日(月)、アスニー山科において実施。施設紹介とステージでの発表会、区内障害者施設による自主製品の販売等を行った。
					地域の見守りの口を育てることを目的に、平成26年度は民生委員を対象に、10月10日(金)、10月31日(金)の2日間にわたって実施した。1回目の講義では統合失調症、うつ病等「こころの病」についての講義を受け、2回目では精神障害者に対する民生委員の関わり等について事例紹介を行い、理解を深めた。
					愛知県に1泊旅行。 ・参加者数:69名。
					ふれあいまつりに参加し、啓発活動を実施した。
					消防署の指導のもと、会員と防災についての研修会を開催した。
					入所申込の相談と入所決定後の支給決定を施行。
					共同作業所など小規模な障害者福祉施設の事業に助成。 ・助成数:5施設 ・予算:210千円
					インターネットで発信される福祉情報を閲覧するためのパソコン1台を総合福祉会館のロビーを設置。
					障がい者の余暇支援として遊びの場を提供。夏休み3回、冬休み2回、春休み1回に開催。 ・参加者数:親子延べ146名、ボランティア延べ53名。

(3) 高齢期の暮らしの安心と生きがいをつくる ・ ・ ・ ・ ・					評価	3.09	2.97	3.02	3.32
50の取組					評価				
					23年度	24年度	25年度	26年度	
	・ 高齢期を迎えても、だれもがいいいきと活動でき、自己実現を追求できる地域社会をめざします。								
	・ だれもが生涯を通じて身に付けてきた知識や技能等を最大に生かせるよう、シニア世代の社会貢献活動の開発と展開を図る「知恵シルバーセンター」の活用等を進めていきます。				3.13	3.03	3.08	3.26	
	・ 高齢期を人生の充実した時期として過ごせるよう、生活健康講座や教養講座等を開催します。								
					実施又は未実施				
					23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・ 老人福祉センター運営事業【⑬～】（市社会福祉協議会）					○	○	○	○	高齢者の各種相談に応じるとともに、健康の増進、教養の向上及びレクリエーションのための便宜を総合的に提供し、もって高齢者に健康で明るい生活を保障する。 ・ 予算:283, 239千円 (山科中央老セン委託料:19, 300, 505円) (山科老セン委託料:9, 657, 925円) ・ 利用者数:605, 894名 (山科中央老セン利用者数:43, 667名) (山科老セン利用者数:28, 808名)
・ 世代間交流事業、教養教室、教養講座、自立活動支援事業、生きいきサロン事業の開催【⑬～】（山科中央老人福祉センター、山科老人福祉センター）					○	○	○	○	児童館との連携による世代間交流仲間づくり、居場所づくり、健康づくり事業を週1回程度実施。
・ 社会奉仕活動、趣味・教養サークル、スポーツサークルなど【⑬～】（老人クラブ）					○	○	○	○	
・ 高齢者等の知識を活用した総合的な学習の時間の実施【⑬～】（小・中学校、関係団体他）					○	○	○	○	

50の取組	・要介護状態にならないよう、望ましい生活習慣づくりをはじめ、健康づくりと身体機能の維持の支援、介護予防サービスの利用支援等を図っていきます。 ・介護が必要となったひとが、一人一人の心身の状況等に応じたケアマネジメントのもとで、適切な保健医療及び福祉のサービスが利用できるよう図っていきます。 ・認知症のあるひとが、住み慣れた地域で可能な限り在宅生活を継続できるよう、認知症に対する正しい理解の普及、原因疾患への対策、本人と家族への相談対応の充実等を図っていきます。 ・地域ケア会議の開催等、地域における総合的・継続的な支援体制の充実を図っていきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.05	2.92	2.96	3.38	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)				
・山科・介護者の会「はげましの会」への支援【⑬～】（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	介護者の仲間づくりを進める「はげましの会」に対し、運営や事業企画について助言。
・健康すこやか学級の実施【⑬～】（市、区、学区社会福祉協議会）		○	○	○	○	社会参加の促進や閉じこもりの防止のため、学校の余裕教室などを活用し、介護予防に関する講座、簡単な運動、健康状態を確認、レクリエーション等を実施。 ・予算:102,247千円(全市) ・区内実施回数:288回 ・区内参加人数:延べ5,738人
・介護予防事業の実施【⑬～】（山科中央老人福祉センター、山科老人福祉センター）		○	○	○	○	山科区地域介護予防推進センター、山科区内の地域包括支援センター等と連携、協働により、介護予防事業を実施。 ・実施回数 山科中央老人福祉センター:150回 山科老人福祉センター:37回 ・事業参加者数 山科中央老人福祉センター:6,481名 山科老人福祉センター:910名
・介護支援専門員・サービス事業者連絡会の定例開催【⑬～】（区他）		○	○	○	○	介護支援専門員の専門知識及び実務実践能力の向上を図る。 ・開催回数:11回 ・講師派遣回数:4回 参加者数:550名 ・予算60千円
・居宅介護支援事業者連絡会と医師会との連携【⑬～】（医師会他）		○	○	○	○	
・指定地域密着型（介護予防）サービス事業所でのサービスの実施【⑬～】（市）		○	○	○	○	・44事業所(平成26年度末時点) ・整備事業(きよみず苑(地域密着型特養)) 予算額:123,200千円(繰越事業、併設ショート) ※参考 ⑮ 整備事業(きよみず苑(地域密着型特養) 予算額:158,450千円
・地域ケア会議の開催【⑬～】（区、学区民生児童委員協議会他）		○	○	○	○	
・京都市民長寿すこやかプランの推進【⑬～】（市）		○	○	○	○	本市における高齢者保健福祉施策の総合的な推進と介護保険事業の円滑な運営を目的として、3年に一度老人福祉計画と介護保険事業計画の2つの計画を一体的に策定する。 平成26年度、第6期京都市民長寿すこやかプランを策定(27～29年度)
・地域包括支援センターの運営【⑬～】（区他）		○	○	○	○	年間9回の運営会議と年間2回の運営協議会を実施している。
・「認知症総合支援事業」の推進【⑬～】（市他）				○	○	市民向け認知症ガイドブックの作成、「認知症対策」をテーマとした地域での医療と介護の連携の推進を図るためのモデル事業の実施。 ・ガイドブック作成部数:57,000部 ・モデル事業実施箇所:9箇所(うち山科区2箇所) ・予算:12,000千円 ※参考 ⑮ ・予算:14,200千円

(4) 区民の健康をつくり、守る

(4) 区民の健康をつくり、守る		評価	3.23	3.18	3.13	3.25
50の取組		評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
	・「京都市民健康づくりプラン」に基づき、生活習慣病対策を基軸として、区民の健康づくり運動をさまざまに展開していきます。	3.28	3.18	3.19	3.36	
	・健（検）診の実施と受診率の向上、学校教育等を通じた健康教育の充実、各種健康相談の充実を図っていきます。					
	・たばこによる健康被害についての啓発や禁煙指導を進めるとともに、公共的な場所での受動喫煙防止対策等を一層強めていきます。					
・インフルエンザ、肝炎、結核などの感染症について、正しい情報伝達と感染予防対策に努めます。						
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・各種健康診査相談の実施【⑬～】（区、医師会、歯科医師会）		○	○	○	○	18歳以上の区民に対して、医師会や歯科医師会と連携して心身の健康について相談に応じ、必要に応じて尿検査、血圧測定を行っている（毎週第2・4金曜日、午前9時～10時30分。）
・京都市民健康づくりプランの推進【⑬～】（市、区他）		○	○	○	○	全体目標である「京都市民の健康寿命を延伸し、平均寿命に近づける。」ため、市民との共汗と施策の融合で、京都ならではの健康的で環境にやさしいライフスタイルへの転換を促し、地域ぐるみで健康づくりを推進している。 また、①栄養・食生活、②身体活動・運動、③休養・こころの健康、④歯の健康、⑤喫煙、⑥飲酒の6分野別に重点取組等を示した「分野別行動指針等」と、定期的な健康診査の受診により、生活習慣病の予防・早期発見と心身機能の維持向上を図り、市民の一人ひとりの生涯を通じた健康づくりを推進している。 ・予算：1,258千円
・集団検診、がん検診、各種健康対策事業の運営協力【⑬～】（保健協）		○	○	○	○	小学校等を会場に、胸部（結核・肺がん）検診、大腸がん検診と特定健康診査等を行っている。また、保健センターにおいて、40歳以上の区民を対象に胃がん・大腸がん・肺がん検診等を行っている。また、30歳以上の女性を対象に乳がん検診を行っている。
・市民検診の実施【⑬～】（医師会）		○	○	○	○	メタボやロコモなど疾病の予防や健康に関する正しい知識を普及し、健康づくりへの意識を高めるために、集団を対象とした健康教室を実施。 ・予算：1,711千円
・健康教育の実施【⑬～】（市、区）		○	○	○	○	疾病の発生及びまん延を予防するための各種予防接種や、結核を早期発見するための胸部（結核）健診の案内を広報発表や保健センターニュースを活用して周知に取り組む。
・がん対策、食育対策の実施【⑬～】（保健協）		○	○	○	○	日本人の死亡原因の第1位はがん疾患であることから、早期発見が最善の対策であることから、区内の40歳以上の方を対象に胃・大腸・肺がん検診を実施している。また、食生活の欧米化とともに生活習慣病の発生している現状に鑑み、食生活を通じて健康管理ができるよう、中学生等を対象に喫煙防止教育を実施。喫煙及び受動喫煙による健康被害に関する知識を普及することで禁煙・防煙意識の向上を図り未成年者の喫煙をなくすことを目指していく。
・たばこによる健康被害についての啓発【⑬～】（区）		○	○	○	○	2か月～4か月の乳児を持つ母親が自然に赤ちゃんに触れ合い、気持ちのゆとりをもつことで育児不安の軽減を図ることを目的にベビーマッサージ教室を実施。また、教室への参加を通じて身近な相談相手として保健師がいることを実感してもらう機会と捉えている。
・保健センターを拠点とした個性ある健康づくり事業「ベビーマッサージ教室」の実施【⑭～】（区）		○	○	○	○	育児中の女性に対し、保育付きの健診を実施し、自身の健康について考える機会を作るとともに、青年期健診について広報した。
・育児のひととき健診【⑭～】（区）		○	○	○	○	慢性腎臓病や高血圧を引き起こす主な原因として塩分の過剰摂取が挙げられることから、減塩指導、高血圧教室を実施し、尿中塩分濃度測定を実施することで食生活をはじめとした生活習慣病の改善を高めるきっかけを作ることを目的に実施。対象を健康づくりサポーターとし、平成26年度は10回測定日を設けた。
・献血事業の実施【⑬～】（献血推進実行委）		○	○	○	○	各学区献血会が実施し主体となり、京都府赤十字血液センターと共同で年間19回実施した。 ・献血者数：713名
・育児中でも安心して健診～「保育付き青年期健康診査」の実施【⑭～】（区）						○
・減塩による高血圧と慢性腎臓病の予防へのとりくみ【⑭～】（区）						○

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・医師会、医療機関、保健センター等の連携を強めるなかで地域医療体制の充実に努めます。				
	・応急手当普及員の養成と応急手当の啓発等、適切な応急手当ができる区民を増やすとともに、区内各所への「自動体外式除細動器（AED）」の設置が進むよう働きかけます。	3.18	3.18	3.07	3.14
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・救急医療に関する研究会【⑬～】（山科消防署、医師会）		○	○	○	○
・救急隊員への各種現任教育【⑬～】（市）		○	○	○	○
・救急関連シンポジウム等への参画【⑬～】（市）		○	○	○	○
応急手当普及員の養成と応急手当の啓発による地域住民の救急対応力の向上【⑬～】（山科消防署、山科消防団）		○	○	○	○
・普通、上級救命講習の実施【⑬～】（市）		○	○	○	○
・中学生への救命講座の実施【⑭～】（山科消防署・山科消防団）		○	○	○	○
・臨床研修医の救急業務見学研修の受け入れ【⑮～】（山科消防署）		○	○	○	○
・自動体外式除細動器（AED）の設置の促進【⑬～】（山科消防署）		○	○	○	○
・自動体外式除細動機（AED）の貸出事業【⑬～】（市）		○	○	○	○
・救急救命研究会「T.U.R.F.」による取組【⑮～】（京都橋大学）		○	○	○	○
・安心救急ステーションの推進【⑬～】（山科消防署）		○	○	○	○
・小学生に対する救命入門コースの実施【⑮～】（市）		／	○	○	○

(5) みんなにやさしいまちにする					評価	3.07	2.92	2.65	2.89
50の取組					評価				
					23年度	24年度	25年度	26年度	
	・すべてのひとの人権が大切にされるまちをめざして、各種啓発活動を展開します。				3.24	3.08	2.89	3.21	
	・子ども・高齢者・障がいのあるひと・女性等、人権を侵害されている、あるいは、されやすいひと、また、生活困窮にあるひとに対して、地域社会としてその生命と人権を守るとともに、本人に内在する力を引き出しながら、自己実現と社会参加を支援していきます。								
	・外国籍区民や留学生等の地域生活における安心安全を守るとともに、活発な国際交流活動の展開を通じて、多文化共生のまちづくりを進めていきます。								
・働く力と意欲があるにもかかわらず働く場が得られないひとに対して、相談対応や働くための環境づくりなどを図っていきます。									
					実施又は未実施				
					23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・人権ポスター展【⑬～】（山科区地域啓発推進協議会他）					○	○	○	○	区内の中学生から人権問題に関わるポスターを募集し、展示する。作品を出展してもらうことにより、人権に対する理解と認識を深めてもらう。(日時:平成26年11月20日～12月18日、開催場所:アートロードなぎつじ)
・講演と映画のつどい【⑬～】（山科区地域啓発推進協議会他）					○	○	○	○	わかりやすい内容で様々な人権問題について理解を深めてもらう。(日時:平成26年12月5日)
・人権街頭啓発【⑬～】（山科区地域啓発推進協議会他）					○	○	○	○	人権の大切さを街頭啓発で訴える。(日時:平成26年5月22日、12月5日) ・参加者数:133名、221名
・各種団体役員研修会【⑬～】（山科区地域啓発推進協議会他）					○	○	○	○	地域の各種団体役員を対象に、人権に関して関心を深め、リーダーとしての役割を果たしてもらう目的で行う。(日時:平成26年5月22日、場所:山科区役所、内容:人石晶教氏の障害のある方の人権について講義)
・民生児童委員会大会及び3部会等で研修会を実施【⑬～】（民生児童委員会）					○	○	○	○	民生児童委員会大会9月5日開催。児童母子・老人・障がい福祉の3部会は部会毎に特定の分野の問題あるいは課題に継続して取り組むことにより、活動の水準の向上を図ることを目的に年2回づつ開催。
・障害者の日街頭ビラ配り【⑬～】（身体障害者団体連合会、区社会福祉協議会）					○	○	○	○	ターミナル駅にて、チラシ配りを行った。
・研修会などへの講師の派遣【⑬～】（身体障害者団体連合会）					○	○	○	○	被災地(東北)におけるボランティアの経験者を講師として派遣。
・山科区地域福祉シンポジウム【⑬～】（山科区地域福祉推進委員会）					○	○	○	○	
・DVリーフレット・カードの配架【⑩～】（市）					○	○	○	○	京都市DV相談支援センター等と連携し、DVの防止や被害者の保護に向けた支援等を実施。 ・予算:56,292千円

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・「京都市男女共同参画推進条例」、「きょうと男女共同参画推進プラン」を踏まえて、男女が、等しく個人として尊重され、性別によらない多様な生き方が保障されるとともに、あらゆる場において、ともに責任を担いつつ、個性と能力を発揮することができる社会づくりを推進していきます。	2.97	2.92	2.62	2.75
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
					</

50の取組	評価	評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
	・「京都市交通バリアフリー全体構想」の趣旨と、重点整備地区「山科地区」の整備実績。また、「京都市みやこユニバーサルデザイン推進指針」等を踏まえて、区内移動の円滑化と区内公共的施設でのユニバーサルデザインの採用を進めていきます。	3.00	2.76	2.46	2.70
	・案内表示、マップ等についての、点訳・触地図化、音声案内、多言語化等をはじめ、公共的施設における、情報・コミュニケーションのユニバーサルデザイン化をさらに進めていきます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例の施行・運営【⑩～】（市）		○	○	○	○
・みやこユニバーサルデザインの推進【⑩～】（市）		○	○	○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		建築物を建築する際には、京都市建築物等のバリアフリーの促進に関する条例に定める施設整備基準に適合するよう協議・指導を行った。 ・協議書交付件数：560件（全市） ・検査済交付件数：498件（全市）			
		年齢、性別、言語、習慣、心身の能力や状態等、人の様々な特性や違いにかかわらず、できる限りだれもが生活しやすい社会環境の整備（ユニバーサルデザインの普及啓発等）に取り組む。 ・予算：8,976千円			

基本施策5：地域のつながりを強める ・ ・ ・ ・ ・

(1) 自治の仕組みを強化する ・ ・ ・ ・ ・

評価	3.15	3.18	3.06	3.29
評価	3.00	3.10	3.14	3.27

50の取組	評価	評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・町内会や自治会、PTA、女性会、老人会等の活動を支援・促進するなかで、地域の住民が、自分たちの住むまちを自分たちでより良くしていく活動の広がりをつくっていきます。					
・マンション居住者と近隣地域の密な関係づくりのため、相互のコミュニケーションが生まれるような機会づくりなどを図っていきます。		3.00	3.10	3.14	3.27
・住民まちづくりの取組を進めるなかで、次代の地域を担う後継人材の育成・確保を図るとともに、区民と区役所のパートナーシップを強めていきます。					
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
地域コミュニティ活性化推進条例による地域コミュニティの活性化〔②～〕(市)		○	○	○	○
平成24年4月に施行した「京都市地域コミュニティ活性化推進条例」や、同年5月に策定した「京都市地域コミュニティ活性化推進計画」に基づき、自治会・町内会をはじめとする地域コミュニティの活性化に総合的に取り組んだ。 なお、平成27年度は、同計画の見直しを行う。 ・予算額:12,000千円 ・自治会・町内会加入率:69.8%(全市) ・地域コミュニティサポートセンター相談件数:515件(全市) ※参考 ② ・予算:11,000千円 ・自治会・町内会加入率:69.8%(全市) ・地域コミュニティサポートセンター相談件数:323件(全市) ③ ・予算:12,000千円 ・自治会・町内会加入率:69.6%(全市) ・地域コミュニティサポートセンター相談件数:458件(全市)					
・まちづくり活動支援事業〔⑬～⑭〕〔⑭で終了〕(京都市景観まちづくりセン		○	○	○	○
・バレーボール大会・コーラス・卓球交歓会の実施〔⑬～〕(小学校PTA)		○	○	○	○
・ぬくもりの地域づくりによる小学生との連携：昔遊び、民謡などの指導〔⑬～〕(女性会、老人クラブ)		○	○	○	○
・山科区「人づくり」ネットワーク実行委員会による取組の推進〔⑬～〕		○	○	○	○
・学校ふれあいサロン事業〔⑬～〕(小学校)		○	○	○	○
・ふれあいサロン等を活用した各種事業(ふれあい活動推進事業)の実施〔⑬～〕(女性会、老人クラブ、小・中学校PTA他)		○	○	○	○
・避難収容施設への衛星携帯電話等の設置〔⑬～〕(市)		○	○	○	○
・学校コミュニティプラザ事業〔⑬～〕(小・中学校)		○	○	○	○
学校・家庭・地域社会の連携のもと、大人として子ども達のために、今何ができるかを市民皆で考え、行動し、情報発信するネットワークとして活動。 ・予算:10,913千円(全市) ・幹事団体数:113団体(全市) ※参考 ② ・予算:10,801千円(全市)					
学校の1教室(余裕教室または会議室・特別教室等との併用)を改修整備し、学区内の子どもたちからお年寄りまで、あらゆる世代の市民の皆様が集い、学びあえる身近な生涯学習の場として提供、区内の全ての小学校に設置済み。					
避難所にはデジタル移動系防災無線を設置。デジタル移動系の電波状況が思わしくない場所には衛星携帯電話を設置する。					
中学校区をひとつの生涯学習ゾーンとして設定し、地域の特色に応じた生涯学習に活用できる施設を校舎・体育館の改築などの際に、小学校・中学校内に整備して、市民に開かれた新しい学校づくりを促進し、ゾーン内では、小学校区の枠を超えて市民の自発的な学習活動を支援するとともに、地域のコミュニティネットワークの発展を図る取組。					

(2) 市民活動を活発にする					評価	3.14	3.14	3.09	3.36
50の取組					評価				
					23年度	24年度	25年度	26年度	
	・NPOや市民活動団体による活動等、テーマ・コミュニティによる区民活動を応援し、これからの山科区づくりの有力な担い手としてのネットワークの充実を図っていきます。								
	・ボランティア講座の開催やボランティア情報紙の発行等により、区民のボランティア活動を振興し、ニーズとマンパワーを結び付けて、地域力につなげていきます。				3.30	3.18	2.97	3.48	
・場と機会の提供や活動助成、連絡協議体制の確保等、区内で活躍するNPOや市民活動団体による活動等を総合的に支援していきます。									
					実施又は未実施				
					23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・ボランティア情報紙の発行【⑬～】(区社会福祉協議会)					○	○	○	○	全戸配布する区社協情報誌「Be-Vo」に山科ボランティア情報を掲載。 ・掲載回数:年1回
・山科区ボランティアセンターの運営【⑬～】(区社会福祉協議会)					○	○	○	○	山科区のボランティア活動の振興・支援策を検討。 ・ボランティア活動に関する相談対応件数:45件
・山科ボランティアグループ連絡会への支援【⑬～】(区社会福祉協議会)					○	○	○	○	山科区内で活動する15のボランティアグループのネットワーク。情報交換、研修会、啓発活動を支援。
・ボランティア団体活動助成【⑬～】(区社会福祉協議会)					○	○	○	○	ボランティアグループの活動を支援するため、広報紙発行や研修費用に助成。 助成団体数:9団体
・ボランティア講座の開催【⑬～】(区社会福祉協議会)					○	○	○	○	障がい者団体等と連携し、各分野でボランティア入門講座を開催した。 ・ボランティア活動基礎講座参加者数:29名 ・視覚障がい者ボランティア入門講座(3回講座)参加者数:8名 ・ふれあい手話講座(昼の部、夜の部、各6回講座)参加者数:11名(昼の部)、15名(夜の部) ・要約筆記ボランティア入門講座(2回講座)参加者数:27名
・山科ユースアクションの実施【⑬～】(区社会福祉協議会、他)					○	○	○	○	夏休みに中高生に施設等での3～5日間の福祉体験の機会を提供。 ・体験先25箇所 ・参加者数:53名
・市民活動総合センター、福祉ボランティアセンター、長寿すこやかセンター、景観まちづくりセンター(ひと・まち交流館 京都)の開設【⑬～】(市他)					○	○	○	○	身近な活動拠点として、だれもが気軽に利用できる、福祉ボランティアセンター、長寿すこやかセンター、景観まちづくりセンターの利用促進に努める。
・京都橋大学における起業企画講座の開催【⑬～⑯】【⑳で終了】(京都橋大学)					○	○	○	○	
・区災害ボランティア活動の推進(研修会の実施及び設置・運営訓練)【⑬～】(区社会福祉協議会他)					○	○	○	○	大規模災害時に設置される区災害ボランティアセンターで、研修とあわせて実施。 ・参加者数:70名
・やましな“きずな”支援事業【㉔～】(区)						○	○	○	「第2期山科区基本計画」の実現に向けて、区民、地域団体、NPO法人、大学等が主体的、自主的に企画、運営される事業に対し、必要とする経費の一部を補助するもの。 ・申請事業数:49件 ・補助金交付決定事業数:42件 ・交付予定額:7,864千円 ※参考 ㉔ ・申請事業数:44件 ・補助金交付決定事業数:20件 ・交付予定額:4,799千円 ㉕ ・申請事業数:46件 ・補助金交付決定事業数:39件 ・交付予定額:6,710千円
・地域団体とNPO法人の連携促進事業【㉔～】(市他)							○	○	地域団体とNPO法人が連携して地域課題の解決に取り組む事業について、採択団体が集めた寄附額と同額を助成。 ・予算:2,300千円 ・寄附募集額:1,575千円 ・寄附実績額:1,578,417円
・やましな茶会～対人援助者のサロン～の開催【㉔】(山科青少年活動センター)【㉔で終了】							○		
・学習支援ボランティアの養成【㉔～】(山科青少年活動センター)							○	○	平成25年度から実施している中3学習会に加えて平成26年度からは、勸修中学校での学習支援事業(勸修中学校放課後学習会)を実施している。 ・勸修中学校放課後学習会支援ボランティア数:48名
・やましなGOGOカフェの運営【㉔～】(区)								○	山科のことや、まちづくりに関心を持つ人が出会い自由な内容で話し合う場として計6回開催。 ・参加者:199名(延べ人数) ・予算額:445千円

50の取組	・区内に立地する大学と連携し、まちの活性化に取り組み、地域づくりへの学生参画をさらに推進していくことで、若い力を地域ぐるみで育て、地域に生かすとともに、学生に山科区への愛着をもち、卒業後も継続して暮らしもらえるよう図っていきます。	評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		2.97	3.10	3.21	3.24
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
京都橋大学による清水焼団地・商店街等の活性化に向けた取組への協力【⑩～】（京都橋大学、清水焼団地、三条商店会、山科商店会他）		○	○	○	
山科区役所と京都橋大学との地域連携に関する協定に基づく取組の推進【⑤～】（区、京都橋大学）		/	/	○	○
京都橋大学救急救命研究会—TURF（ターフ）—の事業が「学まちコラボ事業」に認定【⑩～⑫】（大学コンソーシアム）【㉔で終了】		○	/	/	/
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		「こどもフェスタ2014」に、かるた同好会と京都子ども守り隊～守るんジャー、げんKids★応援隊、救急救命研究会—TURF—の計4団体が参加。 「第1回山科バルフェスタ」、「第2回山科バルフェスタ」の企画立案に教員が参画。 「清水焼の郷まつり」開催に本学教職員・学生が協力した。 ○山科カレッジの開催 ・参加者数:延べ217名 ・予算額:30千円 ○区役所と大学構内に配架棚を設置し、区役所と大学主催イベント等のイベントをPR			

(3) 地域ぐるみで暮らしの安心を守る

(3) 地域ぐるみで暮らしの安心を守る		評価	3.22	3.25	3.09	3.29
50の取組	・「京（みやこ）・地域福祉推進指針」に基づき、山科区社会福祉協議会や山科区地域福祉推進委員会を中心とした関係機関・団体・区民による、地域福祉のネットワークを強化します。 ・地域福祉のネットワークを通じて、住民相互のコミュニケーションを活発にすることで孤独・無縁の住民をなくし、子どもから高齢者まで、すべてのひとの地域生活の安心をつつていきます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.34	3.19	3.24	3.31	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・緊急通報システムの推進（年1回以上の防火安全指導等実施）〔13～〕（市）		○	○	○	○	在宅のひとり暮らし高齢者等に急病や火災などの突発的な事態が発生した場合に、地域社会のネットワークで迅速な救援体制の推進。 ・設置台数:8,034台 ・予算:161.823千円
・障害のある人等を対象に緊急通報体制づくりを推進〔13～23〕（市）〔23で終了〕		○	○	○		
・山科こころの健康を考える会との連携〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	こころのふれあい夏まつり、精神保健福祉シンポジウム、こころの健康サポーター講座、こころのマップ作成を支援。 福祉関係団体の事業に助成。 ・助成団体:15団体 ・予算:897千円
・福祉団体への助成〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	
・山科社会福祉大会の開催〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	法人設立20周年記念として開催。福祉功労者への顕彰、記念講演、感謝の集いを実施。 ・参加者数:第1部・2部:約600名、第3部:約450名
・介護保険事業者情報（エリアマップ）の作成・配布〔13～〕（市）		○	○	○	○	
・子育て支援情報パンフレットの配布〔13～〕（やまなし子育て支援連絡会、区社会福祉協議会）		○	○	○	○	・発行部数:5,335部 ・予算:185千円(山科区版発行費用のみ)
・山科医師会ホームページでの区内医療機関マップの発信〔14～〕（医師会）		○	○	○	○	イベントチラシを活用して、子育て支援情報を発信。
・山科区地域福祉活動計画の推進〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	
・地域福祉推進モデル事業の実施〔13～〕（区・学区社会福祉協議会）				○	○	山科区地域福祉活動計画推進会議において進捗の確認と推進方策の検討。 大塚学区と小野学区をモデル学区に指定。大塚学区では、関係者懇談会、アンケート調査、仕訳懇談会を実施。小野学区では、関係者懇談会、アンケート調査を実施。
・区社協ホームページ上での山科区福祉マップの発信〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	
・福祉情報流通促進事業〔13～〕（区社会福祉協議会）		○	○	○	○	機関誌「Be-Vo」事業計画特集等、第28号を発行。全戸配布。ホームページからの情報発信。
・学区社協活動総合推進事業（学びあう・ふれあう・支えあう活動）〔13～〕（区・学区社会福祉協議会）		○	○	○	○	
・地域の絆づくり事業（見守り・居場所づくり・相談）〔13～〕（区・学区社会福祉協議会）			○	○	○	学区社協において、見守り活動、居場所づくり、相談事業を柱とする、地域の絆づくり事業を推進。
・社会的孤立と生活支援のための総合相談とネットワーキング〔13～〕（区社会福祉協議会）				○	○	
・携帯電話のメール機能を活用した緊急通報体制づくりを推進〔13～〕（市）		○	○	○	○	関係機関等とのネットワーキングにより対応している。 ・福祉相談実施件数:284件 ・個別支援相談実施:52件
・「山科区福祉総合マップホームページ」の作成〔13～〕（山科区地域福祉推進委員会）		○	○	○	○	
・緊急通報システムと連動した住宅用火災警報器の設置〔13～〕（市）		○	○	○	○	緊急通報システム設置世帯のうち、自足歩行が不可能な方がおられる世帯を対象に、同システムと連動し、自動で火災通報できる住警器を設置。 ・予算:55,000千円(全山) ・数値目標:1,900世帯(全山)
・「京（みやこ）・地域福祉推進指針」の推進〔13～〕（市）		○	○	○	○	
・子どもの貧困と学習支援フォーラムの実施〔13～〕（山科青少年活動センター）〔13で終了〕				○		「京・地域福祉推進指針2014」に掲げる各種取組を進め、地域福祉の更なる推進を図る。 ・予算額:5,000千円
・【20新規】やまなしお誕生おめでとう事業の実施〔13～〕（区）						
・【20新規】やまなし子育て情報発信事業の実施〔13～〕（区）						※参考 区内の関係機関が実施する子育て支援事業に関する情報や乳幼児期の子育てのポイント等をまとめた情報誌を作成し配布することにより地域での子育てをサポートする。 ・予算:441千円

平成26年度参考指標
（事業概要・予算規模・数値目標等）

在宅のひとり暮らし高齢者等に急病や火災などの突発的な事態が発生した場合に、地域社会のネットワークで迅速な救援体制の推進。
・設置台数: 8,034台
・予算: 161,823千円

こころのふれあい夏まつり、精神保健福祉シンポジウム、こころの健康サポーター講座、こころのマップ作成を支援。
福祉関係団体の事業に助成。
・助成団体: 15団体
・予算: 897千円

法人設立20周年記念として開催。福祉功労者への顕彰、記念講演、感謝の集いを実施。
・参加者数: 第1部・2部: 約600名、第3部: 約450名

・発行部数: 5,335部
・予算: 185千円（山科区版発行費用のみ）

イベントチラシを活用して、子育て支援情報を発信。

山科区地域福祉活動計画推進会議において進捗の確認と推進方策の検討。

大塚学区と小野学区をモデル学区に指定。大塚学区では、関係者懇談会、アンケート調査、住民懇談会を実施。小野学区では、関係者懇談会、アンケート調査を実施。

区社協ホームページから山科区福祉総合マップにリンクしている。

機関誌「Be-Vo」事業計画特集等、第28号を発行。全戸配布。ホームページからの情報発信。

学区社協において、実態把握と理解促進を助める「学び合う活動」、仲間作りと交流を進める「ふれあう活動」、困りごとを支援する「支え合う活動」を推進。

学区社協において、見守り活動、居場所づくり、相談事業を柱とする、地域の絆づくり事業を推進。

関係機関等とのネットワーキングにより対応している。
・福祉相談実施件数: 284件
・個別支援相談実施: 52件

緊急通報システム設置世帯のうち、自足歩行が不可能な方がおられる世帯を対象に、同システムと連動し、自動で火災通報できる住警器を設置。
・予算: 55,000千円（全山）
・数値目標: 1,900世帯（全山）

「京・地域福祉推進指針2014」に掲げる各種取組を進め、地域福祉の更なる推進を図る。
・予算額: 5,000千円

※参考
子育て家庭を地域ぐるみでサポートするため、新たに、地域の民生委員・児童委員及び主任児童委員による、乳児家庭への訪問・育児相談を実施する。
・予算: 11千円

※参考
区内の関係機関が実施する子育て支援事業に関する情報や乳幼児期の子育てのポイント等をまとめた情報誌を作成し配布することにより地域での子育てをサポートする。
・予算: 441千円

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・関係各機関等の連携による地域防犯体制の強化、暴力の徹底排除など、犯罪のないまちをめざした取組を総合的に進めます。				
	・食生活等を含めた消費生活の安心安全や交通安全など、各般にわたる生活安全対策の強化を図ります。	3.20	3.38	3.18	3.42
	・サル、イノシシ、シカ、アライグマなどの有害鳥獣に対して地域ぐるみの対応を図ります。				
	・動物愛護とペット飼育マナーの向上に努めます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概費・予算規模・数値目標等)			
・少年を取り巻く有害環境の浄化活動【⑬～】(少年補導)		○	○	○	○
・通学指導【⑬～】(各学区交対協、PTA)		○	○	○	○
・各種防犯巡回パトロールの実施【⑬～】(防犯推、少年補導)		○	○	○	○
・他団体との地域パトロール【⑬～】(中学校PTA、他)		○	○	○	○
・山科区生活安全推進協議会による生活安全の取組【⑬～】(生安推)		○	○	○	○
・非行防止街頭広報活動【⑬～】(少年補導)		○	○	○	○
・地域安全ニュースの発行【⑬～】(防犯推、山科警察)		○	○	○	○
・防犯啓発の実施：防犯バレーなど【⑬～】(防犯推、山科警察)		○	○	○	○
・年末啓発共同活動の実施【⑬～】(防犯推、山科警察)		○	○	○	○
・全国地域安全運動【⑬～】(防犯推、山科警察、生安推)		○	○	○	○
・薬物乱用防止啓発活動の推進【⑬～】(薬物乱用防止指導員協議会)		○	○	○	○
・鑑山セーフティパトロール：パトロール体制の結成：鑑山学区【⑭～】(自治連合会他)		○	○	○	○
・市民しんぶん山科区版における「生活安全スポットニュース」による啓発【⑭～】(山科警察)		○	○	○	○
・「子どもあんしん・あんぜんパトロール中」ステッカーの公用車貼付【⑭～】(市)		○	○	○	○
・「みまもり隊」の結成：山階学区【⑮～】(自治連合会他)		○	○	○	○
・「パトロール白々」の結成：白々学区【⑮～】(自治連合会他)		○	○	○	○
・「地域の安心安全ネットワーク形成」事業【⑮～⑯】(自治連合会、市他)【⑯で終了】		○	○		
・「陵々岡小PTA安全ボランティア」の結成【⑯～】(PTA他)		○	○	○	○
・「スクールみまもり隊」の結成：山階南学区【⑯～】(区民ボランティア)		○	○	○	○
・地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)への委嘱【⑯～】(学校、PTA、市)		○	○	○	○
・各学区で活動する子どもみまもり隊への支援【⑯～】(山科警察)		○	○	○	○
・「安楽学区安全みまもり隊」【⑯～】(自治連合会、PTA)		○	○	○	○
・「京の安心安全お役立ちネット」ホームページ開設【⑯～】(市)		○	○	○	○
・ミニ広報誌による情報発信活動の推進【⑯～】(山科警察)		○	○	○	○
・積極的な犯罪発生状況等の情報提供と抑止啓発活動【⑯～】(山科警察)		○	○	○	○
・「山科区獣害対策チーム」の運営【⑯～】(区、他)		○	○	○	○
・「京都子ども守り隊～守るんジャー」【⑯～】(京都橋大学)		○	○	○	○
・「小金塚地域の安心・安全なまちづくりの推進」【⑯～】(区、建設局、小金塚自治連合会)		○	○	○	○
・「山科駅前セーフティネット」の設立・活動【⑯～】(安楽学区自治連、各種団体他)		○	○	○	○
・「学区の安心安全ネットワーク継続応援」事業【⑯～】(自治連合会、市他)		○	○	○	○
・青色回転灯車一斉パトロール【⑯～】(防犯推、山科警察)		○	○	○	○
・「ロックの口(6月9日)」自転車盗被害防止キャンペーン【⑯～】(防犯推、山科警察、各種団体)		○	○	○	○
		夏休みと冬休みに各学区で夜間パトロールを実施。 少年補導委員会と協力し、夏休みと冬休みに各学区で夜間パトロールを実施。 京都市生活安全運動期間(10月11日～20日)における各種広報啓発活動の実施。 犯罪発生傾向と犯罪抑止啓発のため、年3回(1月、7月、12月)に発行。 各学区において防犯啓発、地域安全運動を実施。 各学区において年末防犯啓発を実施。 毎年10月に全国地域安全運動を実施。 区民まつり等で啓発活動を実施。 主に登校時に、30人程度で、通学路における児童の安全みまもり活動を実施。 事件、事故防止啓発のため、平成26年度は4月、6月、10月、1月の計4回掲載した。 市公用車約1,000台に「あんしん・あんぜんパトロール中」のステッカーを貼付し、走行する取組を実施。 休日の登校日を含め、児童の登下校時に、15人程度で通学路における見守り活動を実施。 登下校時に10人程度に通学路における見守り活動を実施。 登下校時に、10～20人の当番制で、通学路における見守り活動を行っている。 毎日、登校時と1年生の下校時に、約20人の当番制で、通学路における見守り活動を行っている。 警察官OB又は教員OBである地域学校安全指導員(スクールガード・リーダー)による全小学校区の巡回指導等の実施。 ・指導員人数:14名(全市) ・予算:6,510千円(全市) 登下校時の主要道路での立番により見守り活動の支援を実施。 児童の安全確保のため、毎日の登校時に20程度で見守り活動を実施。 「京(みやこ)の安心安全ネットワーク総合プラン」に掲げた市民生活の安心・安全にかかわる施策や相談窓口等の情報を発信することにより、家庭や地域における安心・安全を確保する。 交番管内の犯罪発生状況、防犯対策等の内容で、毎月1回、各交番単位で発行。 野生鳥獣による生活被害の防止のため、獣害防除物品貸出し、檻設置による捕獲の取組を行っている。 また、各チームや関係機関による「獣害対策チーム会議」を平成27年3月3日に開催し、取組報告等を行っている。 大学近隣での小学校の下校の見守り、夜間パトロール等の活動を実施。 地元要望である私有道路の本市への移管に当たって、道路用地として寄付を受ける土地の分筆に要する測量費について、平成19年度から助成を行っている。 ・予算:12,848千円 防犯、防災、交通安全等の情報を共有することで、各種活動を通じて地域住民とのきずなを深めるとともに、地域住民と山科駅周辺の利用者の安心安全の確保を図るため、平成22年5月設立され、山科駅前を中心とした安楽学区の安全安心なまちづくりに取り組んでいる。 防犯、防災等身近な安全安心の確保のための活動を関係機関が連携し、各学区で活動する安心安全ネットワークを継続し応援している。 ・予算:325千円 ・開催回数:161回 銀河隊パトロールを実施。また、6月9日以外にも、毎月1日、11日、21を自転車盗難抑止強化デーに指定し、各種啓発活動を実施している。			

		評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
50の取組	・「山科区防災活動計画」等に基づいて、総合的な防災・危機管理の対策を図るとともに、自主防災会・自主防災部、地域の消防団員等を中心とした、地域ぐるみの防災体制を充実させます。	3.13	3.18	2.86	3.15
	・各種防火・防災訓練、避難訓練等を通じ“近隣顔見知り”の関係づくりを図って、地域のネットワークを活性化し、防災力を高めていきます。				
	・高齢者等へのきめ細かな防火・防災に関する安全指導を実施するとともに、緊急通報システムの設置や災害時要配慮者名簿の作成・登録等、災害時要配慮者への支援を図ります。				
	・的確な災害時対応ができるよう、隣接行政区、大津市との連携を強めます。				
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)			
・自主防災会（部）を通じた区民への防火防災知識の普及啓発【13～】（山科消防署、消防団）		○	○	○	○
・消防職員による訪問防火指導、在宅避難困難者宅における点検、指導【13～】（山科消防署、消防団）		○	○	○	○
・山科少年消防クラブの活動【13～】（山科消防署、消防団）		○	○	○	○
・幼稚園・保育所・小中学校における防火・防災指導【13～】（山科消防署・消防団、幼稚園、保育所、小中学校）		○	○	○	○
・防災リーダー、防火アドバイザーの養成【13～】（山科消防署、消防団）		○	○	○	○
・文化財市民レスキュー体制の構築・育成（30の専社で構築）【13～】（市）		○	○	○	○
・最新技術の消防装備等の導入【13～】（山科消防署）		○	○	○	○
・京都市防災情報システムの整備【13～】（市）		○	○	○	○
・災害の実態から見た予防対策等の災害情報を提供することにより、防災行動意欲を喚起【13～】（山科消防署）		○	○	○	○
・地域の火災状況、防災情報を提供【13～】（山科消防団）		○	○	○	○
・被害想定に基づき、実態に即した各種防災訓練を計画・実施【13～】（区、山科消防署、山科消防団）		○	○	○	○
・住宅用火災警報器共同購入設置促進【18～23】（市）【23で終了】		○	△	△	△
・防火見回りたすきリレー【19～】（山科消防署、消防団）【20で終了】		○	○	△	△
・京都市水災情報システムの整備【20～】（市）		○	○	○	○
・携帯電話のメール機能等を活用した自主防災会に対する水災情報の提供【20～】（市）		○	○	○	○
・「地域の集合場所」の選定指導【23～】（山科消防署）		○	○	○	○
・災害ボランティアセンターの設置・運営訓練への協力【23～】（山科青少年活動センター）		△	△	○	○
・【20新規】地域の防災力アッププロジェクト【20～】（区）		△	△	△	△
		※参考 平成26年度に作成された区内の全避難所(32箇所)の避難所運営マニュアルの実効性を高めるため、地域役員を対象とした研修会を実施。また、当該研修を受けて、各学区においても避難所運営訓練や研修会を実施するとともに、避難所運営に必要な資機材を配備する。 ・予算:481千円			

(4) 区役所をはじめ、行政機関を生活の身近にする・・・

(4) 区役所をはじめ、行政機関を生活の身近にする		評価	3.13	3.14	2.96	3.20
50の取組	・区民が主役のまちづくりをさらに進めていくため、従来、行政が担ってきたものについても、公共公益的な活動については積極的に“協働”の手にゆだねていけるよう、担い手の育成や仕組みの整備等、研究・実践を進めていきます。 ・協働推進のため、職員研修の充実や区役所の体制の強化を図るとともに、区民の声を組み入れたまちづくり事業の充実に努めます。	評価				
		23年度	24年度	25年度	26年度	
		3.05	3.06	2.81	3.18	
		実施又は未実施				
		23年度	24年度	25年度	26年度	平成26年度参考指標 (事業概要・予算規模・数値目標等)
・まちづくりアドバイザーの配置強化【②～】(市)		○	/	/	/	各区役所・支所で職員とともにまちづくりにかかる事業を推進するほか、地域の課題解決のため、地域に出向いて地域の方々の活動をサポートする「まちづくりアドバイザー」を平成18年に配置。平成23年度からは14名体制で各区役所・支所を担当してまちづくり活動への支援を行っている。(平成23年度に配置強化を実施済)
・大好き！やまなし魅力発信プラットフォームの構築【③～】(区)		○	○	○	○	山科の魅力に関心のある個人、団体がお互いに情報交換することによりそれぞれの活動の連携を図り、協働で山科の魅力を発信する。平成27年3月12日には、顔合わせの「交流会」を開催。 ・情報発信件数:92件

50の取組	・区民の声に耳を傾けて、便利で、区民の立場に立った円滑な行政サービスの提供に取り組んでいきます。 ・統計をはじめ、区のまちづくり関連情報の収集と受発信の強化に努めるとともに、まちづくり関連団体等とのネットワークの強化を図っていきます。	評価			
		23年度	24年度	25年度	26年度
		3.20	3.23	3.10	3.23
		実施又は未実施			
		23年度	24年度	25年度	26年度
・山科区役所、山科消防署、小・中学校、山科図書館ホームページの発信【⑩～】（区、山科消防署、小・中学校、山科図書館）		○	○	○	○
・京都市各種事業等へのホームページを活用した市民意見の募集【⑬～】（市）		○	○	○	○
・エコまちステーションの運営【⑭～】（市）		○	○	○	○
・戸籍のコンピュータ化【⑮～】（市）				○	○
・山科区役所市民サービス向上検討プロジェクトチームの設置【⑯～】（区）		○	○	○	○
		平成26年度参考指標 （事業概要・予算規模・数値目標等）			
		・山科区役所ホームページアクセス数:13,4077アクセス			
		政策等について、その目的や内容などを公表して、広く市民の意見を募集し、寄せられた意見に対する本市の見解を公表するとともに、市民の意見を勘案して意思決定を行う手続き。			
		地域のごみ減量の活動の支援や、ごみの分別に関する問合せへの対応、地球温暖化対策の推進など、地域の窓口として、ごみ減量・リサイクルをはじめとする総合的な環境に関する普及啓発を行う。			
		平成27年秋ごろに山科区に本籍のある方の戸籍（現在の戸籍のみ）をコンピュータ化する。これにより戸籍の証明書を、コンピュータ化が完了した区の区役所・支所、出張所及び市内10箇所の証明書発行コーナーのいずれにおいても発行できるようになる。また、戸籍の副本を法務局に電子データで提出することにより、災害等により戸籍が滅失しても、容易に復元できるようになる。 なお、山科区の除籍等の古い戸籍については、平成27年度中にコンピュータ化を予定している。			
		山科区役所の若手職員を中心に、プロジェクトチームを結成し、市民サービス向上にむけた課題の抽出、解決策の検討を行う。 ・会議開催回数:8回			

「第2期山科区区基本計画」の実現に向けて、 次年度以降に重点的に取り組む項目について

報告を踏まえ、区基本計画の実現に向けて、第2期山科区基本計画の5つの基本政策ごとに検討を行う。

1 各基本政策ごとの評価の確認

- ・評価の結果について

- ・評価の方法について

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

- ・昨年度の議論について（参考資料参照）

- ・次年度以降に重点的に取り組む項目について

平成 26 年度 第 1 回 山科区民まちづくり会議グループ別討議まとめ

【① 環境を守り継ぐ】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 昨年から評価点数が上がっており、良い結果である。
- 個々の取組も良い取組が行われている。
- 公園・緑地等の整備について、区民の活動も進んでいる。
- 山科はエコ学区事業初年度から全 13 学区がエコ学区となっているなど、先進的である。
- 古紙回収や廃油回収の団体も増えており、リサイクルへの意識も高い。
- ゴミも減っている。

(2) 評価の方法について

- 自分が知っている分野は逆に採点が厳しくなる。わからないところは真ん中ぐらゐの評価になる。
- 自分がかかわっている分野は評価できるが、そうでない分野の評価は難しい。
- わからない分野は採点をしないで空白とする方法もある。
- 自分の住んでいる地域以外のことはわからない。他の地域を見て回ったうえで評価することができたらよい。
- 分野別に採点チームをつくって各学区を見て回ったり、取組されている方の意見を聴いて、そのうえで会議をして評価してはどうか。
- 「低炭素社会づくりによる地球温暖化対策の推進」の項目の評価が前年に比べ下がっており、点数も低い。市全体の取組が多くあがっており、実態がわかりにくいことが原因ではないか。もっと身近でわかりやすい取組をあげる必要がある。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 地産地消によるエコの推進という方法があるのではないか。
- 区内の各所で野菜の自動販売機（無人販売）があり、地産地消に役立っている。無人販売をしている箇所のマップを作ってはどうか。
- 山科の中心的な場所（区役所の前、農協の前、商店街の空き店舗など）で、定期的に野菜の朝市を開催し、規格外の野菜も販売する。
- 朝市は、エコイベントとして打ち出すのではなく、あくまでも地元の野菜の販売として開催し、来場者にエコの意味や二酸化炭素削減の効果、フードマイレージの考え方などを伝えていく。（伝え方のアレンジが必要である。）
- エコ学区の取り組みなど普段の自分たちのエコ活動が、低炭素社会づくりに繋がっているということを知ってもらうことが必要である。
- 分別については子どもの時からの教育、習慣づけが必要である。
- 親が分別しているかどうかを子どもは見ている。

【②－１ まちの魅力・観光を磨く】

１ 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- ざっくりした感想としては分かりにくい項目というのが結構ある。
- 評価できる自信がない分野は、よく分からないけど、何か申し訳ないから、何となく無理やり点数を付けてしまうことがしばしばある。
- 分かるところだけで良ければ、もうちょっと気楽に評価が出来る。
- ちゃんと評価したいと思うが、事業名しか無く、規模や成果が分からない。
- 過去の事業とかで終了しているのか、継続しているのか、実態と合っていない。

(2) 評価の方法について

- 評価者が自由記述をする欄があれば良い。そうすれば、今日の会議で出すような意見の多くを評価の時点でもらえる。
- 委員４０人だけに聞くのではなく、パブリックコメントのような形で、区民に意見を聞いた方が良い。
- 事業については分かるが、これに対して区民の意識がどう変わっているのかが分からないので、効果が分かるような視点を入れた方が良い。

２ 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 農業は全体的に点数が低い。
- 山科なすは、たいそうPRをしている印象があるが、すごく流通しているかというところでもない。昔はなすより筍ではないか。
- もっと山科なす自体が流通したら良い。
- 山科なすの苗を市民に配ることをしているが、もっと増やしたり、収穫だけではなく、市民農園やオーナー農園等、色んなものを増やしていければ良い。
- 農地の確保は、自然や景観の保全にもつながる。山科は $\frac{2}{3}$ が山地で竹やぶも多く残っている。自然をもっと活かす取組が必要。
- 山科では、野菜、果樹、花卉など種類や時期が色々な農業をたくさんやっているのので、旬を巡るツアーにすれば季節感のある観光と組み合わせられる。
- 農業施策は山科の市街地というより郊外で展開される。郊外は、公共交通の不便さが問題にもなっているが、自然豊かな土地でもある。交通施策の課題解消と観光が一緒に組められたら良い。
- 山科区は歴史を知るといふ発掘は、市民の手でいろいろとできているが、現代（近代以降の山科の変化）のことを語ったり、あるいは発掘した魅力から区民が何かを創造していくということに対するサポートがない。
- 区民が文化や芸術を享受するだけではなく、創造していくところをサポート出来たら良い。
- 観光施策については、山科は洛中とは状況等が異なっていることをふまえて取り組むべき。（山科の歴史や文化、寺社仏閣等を深く知ってもらうことが出来ればよい。64の寺社も活かせていない。）
- 琵琶やこども歌舞伎、はねず踊りなど、新たな魅力があり、これらを活かす取組が必要。

【②－２ まちの魅力・観光を磨く】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- やったかやっていないかはわかるが、どういった効果があったのかがわからない。
- 実際と評価にかい離がある。
- ※ 「(2) 伝統産業・農業を守る」「①伝統産業の活性化と観光活用」について、清水焼団地が「清水焼の郷まつり」などで頑張っているにも関わらず、点数が2点台である。発信力が不足しているのか。
- 実際、点数が上がったか下がったかなどは、どうでもよいことである。
- 何点であればよいのかがわからない。
- 委員も変わるので、年度ごとに個人差が出る。(厳しい人が多ければ厳しい結果になる。)
- 感覚的な評価になってしまう。

(2) 評価の方法について

- 行為目標(事業の実施の有無)のみであり、その事業がどう効果があったのか(状態目標)がない。
- 会議の委員のみで評価をしても発展性がない。
- 具体的な数値目標が事業ごとに必要である。
- そもそも観光振興の目的は何かを考える必要があるのでは。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について(予算要求へのアイデア出し)

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- よい資源があっても、それが分散しているので、それらを結びつけることが大事。
- 良いコンテンツには、たとえ利便性が悪くても、人はくる。
- たくさんのチラシ等をばらまくよりもいかに良いものを良く見せるかが大事。
- 自ら発信をするのではなく、口コミで広がるような工夫が必要である。

・ その他の意見

- 清水焼では、アンテナショップを作ってそこから個々の作家につなげるような工夫をしている。

【③ 交通・都市基盤を強化する】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 取り組んでいる項目が多いと頑張っているように見える。
- 評価の際に、去年、おととしの結果を見ながら、今年はこんなものと採点するパターンが多い。
- 交通・都市基盤の分野は随分評価点が低かったが、正しく反映されている。
- 交通・都市基盤の部分は財政の影響が受けやすく、なかなか人に伝わりにくい。

(2) 評価の方法について

- 13年度から継続していることを書いているため、取組項目を少し絞っても良いのでは。
- 今年はこんな目標でやっているとか、目標設定などの具体的な記載がないため、どうしても主観的となり、評価しにくい。
- 過去の評価結果に引っ張られすぎるので、前年度、その前の年度の評価結果を載せることについては検討が必要である。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- ソフト面で啓発や研修を頑張っているが、すぐに効果が出るものではないため、その啓発や研修を、行っているボランティアの人に頑張りを続けてもらえるような方法や励まし等に、取り組んでいっても良い。
- 自転車マナーの向上のため、小学生は講習を受けると自転車免許がもらえる。
- 指導者の養成には限界があり、拡大していくのは難しい。
- ボランティア活動や、その広報活動をしてくれるボランティアの大学生が少しずつ増えて来ている。
- 高齢者向けの交通対策の講習会も充実してきている。
- 公共交通ネットワークも少しずつ場所が増えてきている。
- ハード面では費用が掛かるため、できることが無い。

【④ 保健・福祉・子育て支援を充実させる】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 評価結果としては全体的に横ばいが多く、とび抜けて良い結果が無かった。
- 山科区の高齢化率が、東山区に次ぐ第二位（前期高齢者が多いという特徴）にもかかわらず、高齢者と障がい者分野の点数が比較的低くなっている。
- 評価結果が低いのは、障がい者や高齢者に関する事業の情報発信が不足しているからではないか。
- 障がい者については、介護者の高齢化もあり地域の行事などに参加しにくく、地域の方でも障がい者の実態が把握しづらいのではないか。
- 子育て支援については、点数が相対的に高かったが、毎年度点数が下がってきている。
- 子育て支援の中で青少年分野は点数が低い。部活をしていない中学生の状況が気になるため、もっと小学生と中学生の世代間交流などを活発に行い、中学生に役割を持たせることが大事である。
- ユニバーサルデザイン分野についても比較的点数は低かった。ユニバーサルデザインのパンフレットが児童館に届いても、子供にはあまりピンとこない。

(2) 評価の方法について

- 「分からない（空白）」は、なるべく点数を入れるべきなのか、それともちょっとでもあやふやならば無理をして入れない方が良いのかわかりにくい。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

- 老人会に入らない高齢者が多くなったり、すこやか学級や見守り活動などの地域の取組にもなかなか人が集まらない。ただし、趣味のグランドゴルフ等のイベントへの参加者は多くなっている。
- 一人ひとりの趣味を社会貢献に繋げるようなしくみが必要ではないか。例えば高齢者が喫茶店を運営したり、コーラスをしてもらって福祉施設で歌ったり。
- 自宅前に花を植えて、登下校時間に水やりをすることで子供たちの見守りに繋げ、防犯に役立てる。
- 前期高齢者が山科区に多いということで、団塊の世代の人でも何か貢献意欲があると思うので、一人ひとりのスキルや特技を集めて生かす仕組みを作り、それをすこやか学級などで教えてもらってはどうか。
- 男性高齢者が参加するような地域の取組が必要である。
- 子供や高齢者、障がい者ごとの取組ではなく、ミックスして世代間交流ができるような事業を進めて欲しい。また、いつでも誰でも自由に交流できるような場が必要ではないか。

【⑤ 地域のつながりを強める】

1 各基本政策ごとの評価の確認

(1) 評価の結果について

- 「地域のつながりを強める」については、平均点が高かったが、空白回答がこんなに多い（14～16）のはどういうことか。
- すべての項目に対し、回答していない人がいるのか。委員であるなら回答すべきで、忙しくて回答できないということなら、委員を降りるべきだ。
- 事務局としても、なぜ回答しないのか聞くべきだ。
- 前年度の平均点や空白回答が多いことなどを見て、甘く回答すると、思いのほか平均点が上がると考え、あえて辛口回答をした。

(2) 評価の方法について

- 消防署では所長以外の職員にも確認したが、消防署として回答すべきところしか回答できなかった。行政関係者は、居住しているわけではないので、専門分野のみの回答にしてもらえたら、空白はなくなる。
- 百々学区の自治連の役員に集ってもらい、意見を出し合って回答した。
- 前任者から、回答は関係するところだけで良いと聞かされていた。
- 評価の仕方については、専門分野だけにしては…という意見もあったが、もともとの評価の趣旨としては山科区で生活している中の主観でいいので回答してもらうことで始まった。
- このグループは皆さん、初めて委員になられた方ばかりであった。評価は振り返りのいい機会だという感想を持つ一方、評価の方法について事務局の説明不足だったと指摘された。
- 委員だけの評価ではなく、評価者の公募をしてもいいし、PTAや各種団体などが集まったときに評価してもらうなど、多くの人に評価してもらってはどうか。
- 皆さんが答えやすくするための方法を事務局が提示すべきだ。
- 節目で区民アンケートを取るという意見もあったので、そろそろ、そういう時期かもしれない。

2 次年度以降に重点的に取り組む項目について（予算要求へのアイデア出し）

(1) 昨年度の議論について

(2) 次年度以降に重点的に取り組む項目について

<発信力の強化>

- 項目46の「地域の福祉力の強化」は平均点が「3.24」と高かったが、自分としては実感がない。44の「NPO…」にしてもそう。それはなぜかと考えると、発信力の問題でないかと思う。
- 48の「地域防災…」について、福祉避難所があるはずだが、市民は存在を知らない人が多い。福祉避難所という言葉を知っていても、どこにあるのか、仕組みが分からない。
- 福祉避難所へ行く必要がある人については、区社協が把握すべきだ。
- 福祉避難所については、各避難所の中に設置することとなっている。しかし、避難するときは、まずは町内会で集まる場所に行ってください、そのうえで、避難所へ行くことになる。

<市民活動の拠点の開設>

- 区民としては、何らかの拠点が欲しい。そこで情報がやり取りされ、市民活動が活性化される。それは区役所ではだめだ。土日でも開いているところ、いつでも、だれでも利用できるスペースが欲しい。
- 他の行政区の多くでは、旧コミセンに相当する「いきいき市民活動センター」があるが、山科にはない。
- インターネットの整備や、土日でも利用できるスペースが必要だ。
- 最近では、シェアオフィスといって、複数で使用するオフィスの手法も出てきているし、空き家流通促進事業も活用できるかもしれない。行政が入ると、持ち主も安心だ。自治会館の活用もある。
- 自治会館については、自分も含めて、存在さえも知らない人が多い。
- オープンな自治会館もあるし、オープンでない所もある。
- 百々の自治会館では有料だが誰でも利用できるようにしている。
- 「この自治会館はこういう条件で借りることができる」などの情報も区民に役に立つ。

<町内のつながりをサポートする>

- 今年度のきずな事業に採択してもらったが、町内会単位で交流する「なかよし会」を組織した。町内会単位でのつながりが強くなると、いろいろな情報も伝わるし防災にも役立つので、こういう取組が広がればいいと思う。

京都市山科区民まちづくり会議要綱

(目 的)

第1条 第2期山科区基本計画（以下「計画」という。）について、区民、地域団体、企業、事業者、大学及び行政等の「共汗・協働」により推進するとともに、山科ならではの地域力を活かした協働型のまちづくりを推進するため、専門的な見地及び区民の立場から幅広く意見を求めることを目的として、山科区民まちづくり会議（以下「まちづくり会議」という。）を開催する。

(内 容)

第2条 まちづくり会議で意見を求める内容は次のとおりとする。

- (1) 計画全体の進行管理に関すること。
- (2) 計画に掲げる取組の進ちょく評価に関すること。
- (3) 計画に掲げる取組の達成評価に関すること。
- (4) 区民提案・共汗型まちづくり支援事業の推進に関すること。
- (5) その他計画の推進に関すること。

(委 員)

第3条 まちづくり会議に参加する委員は、次に掲げる者のうちから、山科区長（以下「区長」という。）が依頼する。

- (1) 関係行政機関の職員
 - (2) 地域団体等から推薦を受けた者
 - (3) 学識経験のある者
 - (4) 前3号に掲げる者のほか、区長が適当と認める者
- 2 前項第3号の者のうちから依頼した委員は、学識委員として、専門的見地から意見を述べるものとする。

(任 期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

- 2 委員は再任されることができる。

(座長の指名等)

第5条 区長は、学識委員のうちから座長を、委員のうちから副座長を指名する。

- 2 座長は、まちづくり会議の進行をつかさどる。
- 3 座長に事故があるときは、副座長がその職務を代理する。

(招集等)

第6条 まちづくり会議は、区長が招集する。

2 区長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、意見の陳述、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(部 会)

第7条 区長は、第2条各号に掲げる内容について、より具体的な意見を求めるため、部会を開催することができる。

2 部会に参加する委員は、区長が依頼する。

3 区長は、部会の部会長及び副部会長を指名する。

4 部会は区長が招集する。

5 部会長は、部会の進行をつかさどる。

6 部会長に事故あるときは、副部会長がその職務を代行する。

7 区長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対して、部会での意見の陳述、説明、その他必要な協力を求めることができる。

(委 任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、まちづくり会議に関し必要な事項は、区長が定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成26年4月1日から施行する。

(関係要綱の廃止)

2 山科区民まちづくり会議設置要綱（以下「旧要綱」という。）は、廃止する。

(経過措置)

3 この要綱の施行の際現に旧要綱に基づく山科区民まちづくり会議（以下「旧まちづくり会議」という。）の委員である者は、この要綱の施行の日（以下「施行日」という。）にまちづくり会議の委員として依頼されたものとみなす。この場合において、その依頼されたものとみなされる者の任期は、第4条第1項の規定にかかわらず、施行日における旧まちづくり会議の委員としての任期の残任期間とする。

4 この要綱の施行の際現に旧まちづくり会議の座長及び副座長である者は、施行日に第5条第1項の規定により区長に指名されたものとみなす。